●文部科学省●
経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援事業採択

行動力ある
アジアグローバル人材の育成

事業報告書

［平成25年度］

亜細亜大学
亜細亜大学短期大学部

「創世記」から「充実期」への転換期にあたって

亜細亜大学・
亜細亜大学短期大学部
学長　池島政広

亜細亜大学は、学校名に「アジア」という名称がついているとおり、「アジア、世界で活躍できる人材の育成」という明快な使命を担い、創立以来70年以上に亘って、国際教育に力を入れてまいりました。我が国の中でも、際立って国際色豊かな大学であると認識されております。

平成24年9月に事業採択された本学の〈行動力あるアジアグローバル人材〉育成事業も、早いもので開始から2年が経過いたしました。「創世記Ⅱ」と位置づけた平成25年度は、新たにオンラインでの運営が可能となったグローバル・ビジネスリテラシーの指導の推進や、アセスメントに基づくキャリア指導等を取り入れたシステマティックな留学体制の整備などを行ってきました。また、平成24年度に引き続き、海外フィールドスタディー、インターンシップなど体験型海外授業の実施に向けた現地調査にも取り組んでまいりました。

平成25年8月3日には、「グローバル人材育成推進事業シンポジウム」を経団連会館で開催。「アジアグローバル人材育成に向けた産業界と大学の課題」をメインテーマに、日本アイ・ビー・エム会長の橋本孝之氏による基調講演と、グローバル企業からパネリストをお招きし、「産学連携によるグローバル人材の育成」を主題にしたパネルディスカッションを行いました。企業・官公庁、大学・教育機関などから、232人の参加があり、グローバル人材育成に関する注目度の高さがうかがえました。

8月30日には、中国・大連市において、「中国におけるグローバル人材の育成－日本と中国のニーズと課題」と題したシンポジウムを開催。基調講演に在瀋陽日本国総領事館在大連出張駐在官事務所長の平川智雄氏を迎え、パネルディスカッションでは、日中ビジネスの第一線で活躍されている日系企業のパネリストと共に、10年間に亘る大連でのインターンシッププログラムの取り組み成果と、今後のグローバル人材育成の方向性について、議論を交わしました。

2年に亘って蒔いてきた本事業の種が、芽を出し、つぼみとなり、これから花を咲かせようとしています。「創世記」から「充実期」への転換を迎えるに当たり、社会のニーズに合ったグローバル人材を育成できるよう、今後も基本構想を着実に推進してまいります。

●目　次●

平成25年度活動報告（時系列）…… 1
推進本部会活動実績…… 4
ワーキンググループ活動実績…… 5
グローバル人材育成推進事業シンポジウム…… 6
グローバル人材育成推進事業シンポジウム
実行委員会活動記録…… 7
英語及びTOEIC® …… 9
公式サイト（英・中・韓）からの情報発信 …… 9
文部科学省によるグローバル人材育成推進事業視察 …10
平成24年度グローバル人材育成推進事業実地調査 …10
《海外出張報告》
多文化インターンシップ
シンガポール、マレーシア（9月）……12
シンガポール、マレーシア（2月）……13
中国（9月）……14
韓国（9月）……15
韓国（3月）……15
中国（9月）……16
インド（3月）……16
多文化フィールドスタディー
ベトナム（8月）……18
韓国（8月）……19
フィリピン（9月）……20
AUAP　サンディエゴ ……22
AUGP
中国……23
オーストラリア……24
アジア夢カレッジ
現地受け入れ関連……26
シンポジウム、インターンシップ関連等 ……27
AUCP ……29
セミナー等……30
インターンシップ受入企業との協議……31
修了式、企業訪問等 ……32
AUEP（上海） ……34
キャリア開発（ボストン） ……35
インターンシップ受入協議（韓国・ベトナム）……36
職員海外研修（サンディエゴ） ……38

平成25年度　活動報告（時系列）

前期 4月

■計画の時期・概要（項目）

○ グローバル・ビジネスリテラシーアセスメントシステムの運用開始
○ 多言語ホームページ、SNS、寄付金徴収システム等の運用開始
○ 専門家スタッフの採用
○ 海外留学フェアの開催
○ 英語指導教員による授業開始

■計画内容

○ 平成24年度より準備を進めていたグローバル・ビジネスリテラシーアセスメントシステムの運用を開始すると共に、教職員への運用方法講習会などを開催し、本システム利用での最大限の効果を目指す。
○ 多言語ホームページを立ち上げ、SNS等を利用した情報提供サービスをスタートさせたことにより、本学協定校及び協賛企業等への情宣活動を行い、本補助事業への更なる理解を深める。卒業生から寄付を募り留学希望学生への奨学金としての運用も開始する。
○ 学内の国際交流ラウンジで海外留学フェアを開催、留学希望者のさらなる増加をはかる。
○ 新たに採用した客員教員及び複数の非常勤教員により英語教育及び英語による専門教育の充実をはかる。今年度より本補助事業を加速度的に推進する為、本学のアジアを中心とする新規開発拠点に関する人的関係・情報を有し、またデジタルコンテンツ等に造詣の深い専門家との契約関係をスタートする。

■活動実績

○ オンラインでのグローバル・ビジネスリテラシーアセスメントシステムの本格的な運用を開始した。この有効活用のために学生と教員に対して本システムの利用方法、効果等の説明会を開催した。
○ 多言語ホームページを予定通りに開設し、本学の国際交流の内容および本事業の内容に関して情報発信ができるようになった。さらにSNSにより、留学プログラムの実態を、留学中の学生が自ら高校生や保護者に対して伝えることが可能となった。オンラインでの寄付金システムを立ち上げたことにより、留学のための奨学金の原資を確保する体制も整った。アリゾナ州立大学及びサンディエゴ州立大学への留学生（選抜学生）には情報端末iPadを活用した研修を実施し、アセスメントシステムへのアクセスを含む現地での積極的活用を指導した。
○ 留学の情報提供や啓発に関しては、大学内の国際交流ラウンジにて約1か月の留学フェアを開催し、説明会や特設ブースでの相談や案内冊子の配布等により、新入生および在校生への留学情報の提供を行った。
○ 本事業実施のために、海外でのキャリア開発専門家を特任教授として1名、および英語教育専門家を非常勤講師として5名採用した。また、新たな海外展開の拠点地域での人的ネットワークを確保した。さらに学内では、本事業の専従スタッフとの契約を行った。

前期 5～7月

■計画の時期・概要（項目）

○ 外部スピーカー等によるグローバル人材育成関連講義開催
○ 外部留学フェアへの参加
○ 留学前研修会の実施
○ キャリアサロン開設

■計画内容

○ 当該関連講義を、本年８月に開催予定の「グローバル人材育成推進事業シンポジウム」のリーディング・イベントとして位置づけ、海外で活躍している著名人等をスピーカーとして招聘し、本講義を開催することで留学促進にもつなげる。留学前研修では企業人をアドバイザーとして招致し学生指導を依頼する。能力の高い選抜学生には情報端末を活用した研修を実施する。
○ 海外での就職観を意識づけるために、ジョブフェア兼留学フェア等に参加し、本学のグローバル人材育成事業を紹介するとともに高校生・保護者に対し留学の意義を周知する。
○ 主に２～３年次生を中心にキャリアサロンを開設、企業からアドバイザーを招致し就職活動に向けた助言を得る。

■活動実績

○ 海外で活躍している企業人等を講師として招聘し、随時講演会等を開催し、留学促進やグローバルな職業選択の啓発を行った。留学前研修にも企業人をアドバイザーとして招致し、学生指導を依頼した。
○ 教職員がジョブフェアや留学フェア等に参加することで海外就職活動の実態を理解し、学内に還元し、このプロセスで企業人とのネットワークを構築した。
○ 主に2～3年次生を中心に年間を通じてグローバルキャリアサロンを開設し、企業人アドバイザーによる就職活動に向けた啓発と具体的なノウハウを学生に提供した。

前期 5～7月／後期 10～12月

■計画の時期・概要（項目）

○ TOEIC®（学生・職員向け）専門講師（外部）による講座開催

■計画内容

○ 学生の英語能力向上をはかるべく、TOEIC®外部専門講師

による課外授業を開講し、本補助事業で目標としている英語能力レベルの達成に向けて課外教育を強化する。また、職員の外国語運用能力向上の観点から、同様に外部講師による授業を開講する。

■活動実績

○ 学生の英語能力向上をはかるべく、TOEIC®外部専門講師による課外授業（各学年に対応、またTOEIC®からビジネス英語まで目的別に開設）を開講し、本補助事業で目標としている英語能力レベルの達成に向けて課外教育を強化した。また、職員の外国語運用能力向上の観点から、外部講師による英語力強化の為の課外講座を開設、実施した。

通年 5~1月

■計画の時期・概要（項目）

○ インターンシップ・フィールドスタディー実施地域での現地調査／海外（中国・大連）でのオムニバス講義の講師依頼・調整のための出張

■計画内容

○ 平成24年度から実施している現地調査を継続実施し、特に海外インターンシップ・フィールドスタディープログラム運用実施面を視野に入れ、詳細項目の洗い出しとその対応に傾注する。地域によってゼミ単位での現地研修やオムニバス講義の開講等、パイロットプログラムとして実施する。

■活動実績

○ 平成26年開講の海外での現地体験型授業すなわち「多文化フィールドスタディー」「多文化インターンシップ」の準備として平成24年度から実施している現地調査を継続実施した。前者では、ゼミ研修の形をとり、実際に学生を参加させ、現地（中国、韓国、ベトナム、フィリピン）での社会調査を実施した。後者では海外（中国、香港、韓国、シンガポール、マレーシア、インド、ベトナム）でのインターンシップ受け入れ先企業の開発と実施に向けた協議を行った。大連においては、企業等の実務家によるリレー形式の講義及び現地企業にてビジネスインターンシップを実施した。

夏季休暇中 8~9月／春季休暇中 2~3月

■計画の時期・概要（項目）

○ 留学先への出張における学生面談指導及び企業訪問による研修状況の確認

○ 職員対象語学研修

○ 海外協定大学増加のための出張

■計画内容

○ 本学独自のグローバル・ビジネスリテラシーアセスメントシステムは、留学の前、帰国後の各時点で効果測定を行い、留学期間中の成長を「見える化」することが特徴である。AUAP（アメリカ留学）・AUGP（世界13の国・地域への留学）実施国の中から重点校に教職員が赴き、学生達に直接指導を行い、留学中の目標管理の進捗状況を把握し、また学生達のモチベーション維持をはかる。

○ 事務職員の外国語力向上のため、海外研修を実施する。

○ 新規協定大学増加のため、教職員を海外に派遣する。

■活動実績

○ AUAP（アメリカ留学）・AUGP（世界13の国・地域への留学）実施国の中から重点校に教職員が赴き、アセスメントシステムの活用を促した。留学中の学生達に留学目標の進捗状況を自ら把握させ、これらを通してモチベーション維持を図った。

○ 事務職員の外国語力向上のため、サンディエゴ州立大学にて海外研修を実施した。

○ 新規協定大学開拓のために教職員を中国・上海に派遣した。

夏季休暇中 8~9月

■計画の時期・概要（項目）

○ グローバル人材育成推進事業シンポジウムの国内外での開催、キャリア教育会議開催

■計画内容

○ 本学留学プログラムであるAUAP、AUCP（中国留学）は本年度それぞれ25周年、10周年を迎える。これに合わせて、今までの本学のグローバル人材育成への取り組み、また今後の取り組み等を発表しつつ、パネラーとして専門家や企業人を招く。「グローバル人材育成推進事業シンポジウム」を国内及び海外（中国・大連）で開催する。なお、本シンポジウムは、本事業採択各大学へも連絡し、大規模に開催する予定。さらに協賛企業関係者を学内に招待し、人材育成に関する意見交換を行う。

■活動実績

○「グローバル人材育成推進事業シンポジウム」を国内（東京・大手町、経団連会館）及び海外（中国・大連）で開催し、本事業採択各大学を含む社会一般に本学の取り組みを公表した。また、企業関係者による基調講演やパネルディスカッションを通して、グローバル人材の資質、その育成方法、社会のニーズに関する議論を深め、今後の事業への指針とした。さらに、学内でキャリア教育に関する実務家との意見交換を行った。

後期 9～3月

■計画の時期・概要（項目）

○ 英語能力測定試験及び地域言語能力試験の実施

○ グローバル・ビジネスリテラシーデータ収集

■計画内容

○ 最終学年の英語力の伸長度を測定するために4年生全員を対象にTOEIC®テストを実施する。同様に、地域言語の伸長度を測定するために、各言語の検定試験を実施する。

○ 在学中に留学、海外インターンシップ、海外ボランティアなど様々な経験をした学生のグローバル・ビジネスリテラシーの成長度を確認する。

■活動実績

○ 最終学年の英語力の伸長度を測定するために4年生全員を対象にTOEIC®テストを実施した。また、本学部が重視する地域言語（英語以外のアジア系言語）の伸長度を測定するために、インドネシア語と中国語の受講学生に対し、両言語を母語とするチューターを活用しつつ授業を運営する体制を確立し、この言語の公的検定試験を受けさせた。

○ グローバル・ビジネスリテラシーデータを収集し、様々な観点からのデータ加工・比較を可能とするため、本アセスメントシステムに、データ・ダウンロード機能を新たに付加した。

その他

■計画の時期・概要（項目）

○ 実施状況の精査と年次報告書の作成、国内外への情報発信、多言語ホームページ等の更新作業の実施

■計画内容

○ 外部からの評価も踏まえ、事業の実施状況を精査し、年次報告書を作成し、本取組の国内外への公表・普及とあわせ、他大学等の成果との比較・検討を行う。

■活動実績

○ 次年度（平成25年度）に向けての効果的な事業実施のために、委嘱した外部評価委員および学内事業関係者、一般教職員が参加し、平成24年度の事業評価発表会を実施した。また、その後、外部評価委員と本学プロジェクトスタッフで実施状況を精査しつつ、意見交換、評価会を行った。さらに平成24年度の年次報告書を配布し、本取組を社会一般に公表した。また、多言語化ホームページの更新・ニュース配信を行った。

○ 12月に開催されたGGJ（Go Global Japan）イベントにブース出展し、多くのブース訪問者に対し、本事業のアピールだけでなく、本学の国際交流プログラム全体の紹介を行った。その後、文部科学省主導による海外留学プロモーションビデオ作成のために、多数の学生を参加させた。

○ 協定大学（インドネシア大学、アル・アズハル大学、ブディルフル大学）が複数あるインドネシア・ジャカルタに教職員が出張し、当地の大学や高校にて留学受け入れに関する情報提供を行った。また他大学と連携し、国内外留学生を対象に企業説明会を開催するなどキャリア支援の強化も行った。

○ 国際関係学部多文化コミュニケーション学科では地域言語の履修を必修としている。学生が適切な語種を選択できるように授業で開設する言語の情報（文字、使用される地域・国家、使用人口、文例、発音など）をコンテンツとするDVDを作成した。また、同学科の学生が学習の成果を記録し、将来の学習計画を立案できるような携帯用の記録帳を作成した。

推進本部会活動実績

第２回 （本年度第１回）期日：平成25年5月22日（水）

＜議題＞

○平成24年度グローバル人材育成推進事業実績報告書
○平成25年度グローバル人材育成推進事業調書
○グローバル人材育成推進事業シンポジウムについて
同日に周年記念パーティー（AUAP25周年、アジア夢カレッジ10周年）
○平成24年度成果報告会について
○平成24年度事業報告書について
５月27日（月）納品予定
○ブランディング広報の実績
（新聞、雑誌への掲出、駅構内へのポスター掲示等）
○事務スタッフについて
平成24年度２名、25年度１名　計３名（派遣）
○今後の日程

第３回 期日：平成25年7月30日（火）

＜報告・確認事項＞

○平成24年度成果報告会の結果について
○グローバル人材育成推進事業シンポジウムについて
• シンポジウム
申込者総数　カテゴリー別人数　進行（プログラム）
• 周年記念パーティー
（AUAP25周年、アジア夢カレッジ10周年）
申込者総数　カテゴリー別人数　進行（プログラム）
○文部科学省の視察と監査（予定）
視察‥‥８月８日（木）10時から
監査‥‥９月５日（木）の半日（この日だけの受け入れで回答）
○今後の日程
海外視察、交渉等
○その他

第４回 期日：平成26年1月15日（水）

※報告内容により、学長、専務理事、常務理事も出席、拡大本部会として開催。

＜報告・確認事項＞

○行政改革推進会議の「秋のレビュー」及び平成26年度予算（案）に関する説明（12月26日開催）の報告について
○グローバル人材育成推進事業の事業名称の変更について
「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業に
○平成26年度の予算（上限額など）と提出について
○文部科学省による実地調査（平成24年度の経費面）について
○その他

ワーキンググループ活動実績

第８回　（本年度第１回）期日：平成25年４月17日（水）

＜議題＞

1．今後の主な事業展開・作業について
　①文科省提出の平成24年度精算（経費面）の報告
　②平成24年度年次（年度）報告書について
　③平成25年度事業展開（提出調書）と経費について
　④シンポジウムについて
　　８月３日（土）のシンポジウムの登壇予定者等について
　　会場視察、打ち合わせについて
2．その他

第９回　期日：平成25年５月８日（水）

＜議題＞

1．各部門（事務関係）の現状報告
　　国際交流課、広報課、キャリア支援課、教学課ほか
2．成果報告会について
　　• ５月29日（水）開催予定
　　• 外部評価者への案内・依頼
　　• 報告会の内容・進行について
3．危機管理（学内）について
4．文科省への提出書類について
　　４月での提出物と５月での提出予定書類
5．シンポジウムの会場下見と案内方法等について
　　４/26に下見。経団連会館２階の国際会議場がメイン会場。対面の経団連ホールが周年記念パーティーの会場。
6．その他

第10回　期日：平成25年５月21日（水）

＜議題＞

1．シンポジウムの基調講演、パネリストについて
2．その他

第11回　期日：平成25年６月12日（水）

＜議題＞

1．成果報告会、評価会（５月29日）の報告
　　出席者リスト、学外者（評価員）
　　評価会記録、成果評価まとめ（評価員４氏による）
2．シンポジウム（８月３日、経団連会館）の概要について
　　チラシ原稿
3．シンポジウム（８月30日、中国・大連市）の概要について
　　大連シンポジウム（案）
4．周年記念パーティーの開催概要について
　　招待者リスト
　　シンポジウム、周年記念パーティー（案）‥‥タイムテーブル
5．その他

第12回　期日：平成25年10月18日（金）

＜議題＞

1．ＷＧメンバーの交代について
　①事務職員の人事異動による交代
　②キャリア関連事業展開に伴う委員の追加（検討）
　　国際関係学部のキャリア委員をメンバーに
2．文部科学省の事業視察報告
　　10月４日に実施された文部科学省による視察の報告
3．平成25度進捗状況
　　海外フィールドスタディー、インターンシップの事前調査・交渉等
4．平成26年度予算方針について
　　国際関係学部案に基づく全体的な枠組みについて
5．その他

第13回　期日：平成25年11月19日（火）

＜議題＞

1．平成26年度予算について
　①グローバル人材育成推進事業予算について
　　• 国際関係学部の予算
　　• 事務部門の予算
　②大学予算について
　③予算の方針と作成までのスケジュール
2．グローバル人材育成推進事業補助金の今年度追加申請について
　　11月22日（金）　12時締切
3．その他
　①11月24日（日）開催（お茶の水女子大学会場）の公開セミナーについて
　②平成25年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業採択を受けての補助金の活用方法について（総務課申請分）

第14回　期日：平成25年12月11日（水）

＜議題＞

1．文部科学省による実地調査について
　　12月10日（火）に実施された文部科学省による平成24年度事業に関する実地調査の結果について
2．平成26年度予算について
　　計上項目等

第15回　期日：平成26年２月５日（水）

＜議題＞

1．平成25年度末での海外出張関係について
　○出張先、出張者、日程等
2．平成25年度事業報告書について
3．平成26年度調書（予算含む）の提出と事業名称について
　○１月28日に調書を提出
　○事業名称が「経済社会の発展を牽引するグローバル人材支援」に
4．平成24年度・25年度事業に関するフォローアップ調査について
5．新たな海外留学支援制度奨学金について
6．その他

グローバル人材育成推進事業シンポジウム

■名　称

亜細亜大学グローバル人材育成推進事業シンポジウム

■テーマ

「アジアグローバル人材育成に向けた産業界と大学の課題」

■日　時

平成25年８月３日（土）　13時30分から16時40分

■場　所

経団連会館　国際会議場

■後　援

日本貿易振興会／東京商工会議所／東京経営者協会
東急グループ

■基調講演者

日本アイ・ビー・エム株式会社取締役会長　　橋本孝之氏

■亜細亜大学の取り組み概要説明

亜細亜大学国際関係学部教授／グローバル人材育成推進事業
プロジェクトチーフ・ディレクター　　新井敬夫

■卒業生メッセージ

三井物産人材開発株式会社ＭＢＫグループ人材開発部
人材開発第二室　　濱田一人氏

■パネリスト

○日産自動車株式会社人事本部副本部長　　奈良崎修二氏
○全日本空輸株式会社人事部主席専任講師兼センター長
　遠藤孝博氏
○亜細亜大学アジア研究所長　　石川幸一
○亜細亜大学特任教授（サムスン経済研究所諮問役）
　張　相秀

■モデレーター

日本経済新聞社編集委員　　後藤康浩氏

■司会者

駒村多恵氏
（フリーアナウンサー、平成５年度国際関係学部卒業）

■入場者

一般　11人
他大学等教育関係者　13人
企業関係者　59人
海外協定大学　19人
教職員（スタッフ含む）　64人
学生（大学院生含む）　39人
卒業生　20人
その他　７人
総計　232人

■当日の進行

学長の開会の挨拶
基調講演
亜細亜大学の取り組み概要説明
卒業生メッセージ
（休憩）
パネルディスカッション
テーマ「産学連携によるグローバル人材の育成」

■事前告知（方法と媒体）

○告知チラシ（A4版　４C、1,000部）
○日本経済新聞　東京本社版　７月25日付　2段1/2
○朝日新聞　東京本社版　６月23日付　社会面突出し

■実行委員会組織

「シンポジウム実行委員会活動記録」（7ページ）に掲載。

グローバルシンポジウム

グローバル人材育成推進事業シンポジウム実行委員会活動記録

第１回実行委員会　期日：平成25年1月23日（水）

■実行委員会メンバー

栗原 孝・副学長、尾関英正・国際交流委員長、秋月弘子・国際関係学部教授（AUAP実行委員）、志賀雅二・国際交流センター部長、五味敏雄・企画調査課長、齋藤 広・広報課長、柿内利宏・業務監理室課長、西川修治・国際交流課長、三澤 勝・秘書課主事、寺尾浩一・国際交流課主事、三谷和也・財務課副主事、本橋千佳・国際交流課主事補、行本貴美・留学生支援課書記　以上13名

■シンポジウムとは

文科省から採択を受けたグローバル人材育成推進事業の一環として、本学がこれまで取り組んできたAUAPやアジア夢カレッジなどのプログラムの実績をもとに、今後育成する人材について、内外に発信することを目的に開催する。グローバル人材育成推進事業では、「行動力あるアジアグローバル人材」の育成を目指している。

なお、平成25年度は、AUAPがスタートして25年、アジア夢カレッジが始まって10年という年にあたる。

■開催概要

○期　日　　平成25年８月３日（土）
○場　所　　経団連会館　国際会議場（大手町）
※時間・テーマ・出席者は未定

■今後のスケジュール

○協議・検討事項
- 上記概要（名称、テーマ、出席者＝シンポジストと進行役、開催時間、経費面など）のうち、特に経費面は１月末までに。（平成25年度調書申請提出期限が２月８日のため）
- チラシ、ポスターの制作（３月までに完成させたい＝４月の新年度とともに告知活動を展開させるため）
- ２月、３月の会合日程
- その他

第２回実行委員会　期日：平成25年2月12日（火）

＜決定事項＞

○実行委員会名称
「グローバル人材育成推進事業シンポジウム実行委員会」
○シンポジウム名称
「グローバル人材育成推進事業シンポジウム」
○期　日　　平成25年８月３日（土）
○場　所　　経団連会館
○方向性
文科省から採択を受けたグローバル人材育成推進事業の一環として、産業界、実業界が求めるグローバル人材像を探るとともに、亜細亜大学の取り組みや同事業で育成する人材像に絞ったものとする。
○経費関連
平成25年度の調書申請を２月８日提出。

＜検討事項＞

○テーマ
○当日のスケジュール
受付13時　　開始13：30
挨拶　池島学長
基調講演　　講演者（交渉中）45分～ 50分
質疑応答　　10分程度（※）
シンポジウム（登壇者）
５人程度を予定し、１人15分のスピーチを行う。
意見交換／質疑応答　　10分程度
※基調講演終了後に10分程度の休憩
○担　当
- 司会（進行）・講師・登壇者等接遇　・受付　・会場整理
- 司会進行補助　・会場関係者（経団連会館）との折衝
- 準備関係（会場視察･折衝、講師交渉、告知印刷物の作成、基調講演・シンポジストの資料作成など）

＜今後の協議・検討事項＞

○基調講演講師の人選
○シンポジストの人選
○上記人選結果の機関決定と学長了解の必要性
○当日からの作業スケジュール案
７月下旬：会場との最終打ち合わせ
７月上旬：入場（参加）希望者の締め切り
６月上旬：入場（参加）希望者の申し込み開始
ホームページ、中央線等での告知掲出
５月下旬：ホームページ用原稿の完成
５月中旬：車内広告用ポスター及びチラシの完成（納品）
４月上旬：車内広告用ポスター及びチラシの作成開始
３月下旬：概要の確定（登壇者人選、タイムスケジュール等）

第３回実行委員会　期日：平成25年4月17日（水）

＜登壇者について＞

実行委員会では、学長との協議を経て決めることになった。開催後に、学長室で学長を交え、シンポジウムの登壇者について協議。

栗原副学長、石川先生、新井先生、志賀、西川、寺尾の６名。

基調講演者については学長に一任することになった。

第４回実行委員会　期日：平成25年5月9日（木）

＜議題＞

１．基調講演等登壇者について
○基調講演者
○シンポジストの顔ぶれ
○全体の司会とシンポジウムの進行役
２．会場下見の報告
３．当日対応に関する課題等について
○受付、スタッフの昼食等
○会場の制約（飲食、記録用ビデオ撮影等で）
○１階席と２階席の割り振り（原則として、アメリカ3大学関係者と学内関係者は2階席）
○休憩時でのテーブル・椅子の設営（ステージ）、コーヒーブレイク時の人員配置
４．大連市でのシンポジウムについて
8月末に大連市のホテルで開催予定
５．周年記念パーティーについて（資料）
※出席者同伴の子供（幼児・小学校低学年）対応ついて

6．今後の予定
○5月下旬：チラシ等完成
○6月上旬：告知活動・参加者募集開始（大学ＨＰ／Facebook ／新聞広告掲出／他大学・企業等学外への案内通知の発送ほか）
○7月10日（水）：第1次募集締め切り（250名に達し次第締め切り）

第５回実行委員会　期日：平成25年6月19日（水）

＜議題＞
1．シンポジウムの実施概要について
○基調講演者、パネリストの顔ぶれ等
2．告知活動について
○チラシ
○新聞広告（日本経済新聞、朝日新聞）
○大学ホームページ
※納品、掲載・掲出スケジュールについて
3．当日スケジュールの概略
○担当割振り等
4．大連市でのシンポジウムについて
○８月30日（金）に大連市のホテルで開催
○スケジュール、登壇者予定
5．周年記念パーティーについて
○実施概要
○担当割振り案
○告知展開について

第６回実行委員会　期日：平成25年7月3日（水）

＜議題＞
1．シンポジウムの最新情報について
○申込者の人数と内訳（7/3朝現在）
シンポジウム：75人、パーティー：34人、両方：15人
○業務と担当者
○当日までのスケジュール案
７月23日（火）‥‥申し込み締め切り（仲介業者との打ち合わせ）
７月25日（木）‥‥レジュメ等、登壇者の資料確認
７月30日（火）‥‥実行委員会（実施前最後）
※申し込み締め切り後での実行委員会開催も。
2．大連市でのシンポジウムについて
○８月30日（金）の午後に大連市のホテルで開催
※現地にて最終確認中
3．周年記念パーティーについて
○招待者等
○告知・募集活動
○司会者との打ち合わせ

第７回実行委員会　期日：平成25年7月24日（水）

＜議題＞
1．シンポジウムの最新情報について
○申込者の人数と内訳（7/24朝現在）
シンポジウム：179人、パーティー：216人（子供含む）、両方：59人　※他に教職員が各約70人。
○カテゴリー別申込者数は集計中
○シンポジウムでは250人を超えた場合は、学内（教職員・学生）関係者を２階席に。
2．進行（プログラム）
○シンポジウムと周年記念パーティー
3．担当と業務
○シンポジウム／周年記念パーティー
4．当日の服装等
ノーネクタイ（上着）、ネックストラップ（IDカード入り）、ネームプレート
5．大連市でのシンポジウムについて
○出張者（予定）・・・学長、副学長、石川先生、西澤先生、遊川先生、三橋先生、志賀・西川・三澤・寺尾
※下線はアジア夢カレッジ関係業務含む。

第８回実行委員会　期日：平成25年7月31日（水）

＜議題＞
1．シンポジウム、パーティーの最新情報について
○申込者数　計 269人（着席者数255人）　定員250名
企業・官公庁 78人　大学・教育機関 15人　卒業生 22人　在学生 34（アジ戦11人）　亜大教職員 67人（着席者53人）　来賓・招待者 34人　その他 19人
○周年記念パーティー　計 300人（子供含め 310人）
卒業生 135人（子供10人）　在学生 31人
アメリカ3大学 19人　招待者 19人　亜大教職員 73人
その他 23人
2．タイムテーブルと担当・業務
○シンポジウム
○周年記念パーティー
3．進行・プログラム
○シンポジウム
○周年記念パーティー
4．記念品等
○アメリカ３大学への記念品
○ＡＵＡＰ功労者への記念品
○ＡＵＡＰスタッフ・アジア夢カレッジ関係者への記念品
○参加者への記念品（記念パーティー）
5．事務処理・連絡事項
昼食、交通費等
6．大連市でのシンポジウムについて
８月30日（金）午後、中国・大連市のホテル・ニューワールドにて開催
7．その他

英語およびTOEIC®

平成25年度には、通常の授業に加えて、以下の９つの課外講座を開催し、TOEIC®得点向上および全般的な英語力強化をはかった。課外講座の概要は以下の通りである。

（１）１年生向けTOEIC®講座・前期
（週二回／一回3時間／９週間／参加者45名）
（２）１年生向けTOEIC®講座・後期
（週二回／一回3時間／９週間／受講者43名）
（３）２年生留学前講座・前期
（週一回／一回2時間／11週間／受講者114名）
（４）２年生夏季休暇中・集中
（一回4時間／６日間／受講者受講者27名）
（５）２年生留学後講座・後期
（週一回／一回2時間／11週間／受講者54名）
（６）３・４年生向けビジネス英会話前期
（週一回／週一回90分／９週間／受講者60名）
（７）３・４年生向けビジネス英会話後期
（週一回／週一回90分／９週間／受講者19名）
（８）１～３年生　春季休暇中・集中TOEIC®講座
（一回3時間／９日間／受講者31名）
（９）１～４年生英会話オンライン講座
（英会話サプリ／無償試供／受講者42名）

これらの講座の成果を単年度実施のみで計ることは容易ではないが、一例として、「1年生向けTOEIC®講座・前期」受講者の得点の伸びを1年生全体の伸びと比較すると以下のようになる。4月入学時TOEIC®（全体平均326点／受講者平均417点）に対して、8月（一部は7月）時（全体366点／受講者473点）であり、伸びは全体が40点に対して、受講者では56点となっている。受講者自身がTOEIC®学習に意欲的という側面もあると思われるが、一定の成果が出ているものとみなせるであろう（なお、受講者の平均点が当初より高いのは、高得点者を選抜したことによる）。

課外講座と並行して、優秀な先輩学生によるチュータリングも実施した。１つは「英語スーパーコース」履修生（前期：2年生22名、後期：1年生23名）を対象に、上級生で900点以上を取得している学生が実践的にTOEIC®対策の指導を行うというものであった。参加した学生は前期（2年生）が7名、後期が10名（1年生）であった。指導方法は課題を与えそれについての説明を行う形式で、少人数のクラスであり、また指導が上級生ということもあり、参加学生の反応は好評であった。これに加えて1年生を対象とした基礎的な文法のチュータリングも実施した。こちらの参加者は10名未満という状況で学生への周知に課題を残すこととなったが、全般的に見れば、チュータリングは、指導する側および指導される側双方にとって教育的意義が高く、今後も継続を予定している。

公式サイト（英・中・韓）からの情報発信

本学の公式サイト（英語・中国語・韓国語）は、平成24年度末に全面改訂を行い、平成25年度から実際の運用をスタートさせた。本サイトでは本学の教育内容や学生生活全般、入試情報、ニュースを国際的に発信しており、特にニュースについては、国際交流課・留学生支援課・広報課の連携のもと、年間で50本を超えるニュースをタイムリーに配信した。平成25年度に配信した主なニュースは次のとおり。本学の外国人留学生募集および国際交流の促進に活用した。

- シンポジウムを開催（8月）
- AUAP25周年、アジア夢カレッジ10周年記念パーティーを開催（8月）
- 西武信用金庫と包括的連携・協力協定を締結（10月）
- ボストンキャリアフォーラムに参加（11月）
- 太田耕造杯外国人留学生日本語スピーチコンテストを開催（12月）

《参 考》

英語サイト	http://www.asia-u.ac.jp/english/index.html
中国語サイト	http://www.asia-u.ac.jp/chinese/index.html
韓国語サイト	http://www.asia-u.ac.jp/korean/index.html

文部科学省によるグローバル人材育成推進事業視察

■日　時　平成25年10月4日（金）　13：02～15：07

■場　所　国際交流センター打ち合わせ室、国際交流ラウンジ（イングリッシュ・アワー）、7303教室（インドネシア語中級＝増原綾子先生）

■出　席　文部科学省：
高等教育局高等教育企画課国際企画室長
有賀　理氏
高等教育企画課国際企画室国際企画専門
佐藤邦明氏

亜細亜大学：
副学長　栗原　孝
国際関係学部教授（G人材チーフ・ディレクター）
新井敬夫
国際関係学部教授　秋月弘子
国際関係学部教授　千波玲子
国際交流センター部長　志賀雅二
国際交流課長　西川修治
国際交流課参事補　寺尾浩一

■進　行
挨拶→国際交流ラウンジで「イングリッシュ・アワー」を視察→授業「インドネシア語中級」視察→打ち合わせ室に戻り、説明後の質疑応答や意見交換、情報交換等→終了

■文科省出席者からの主な発言・意見
○単位認定、大学の付与については、大学の自由に捉えるようになっている。「フィールドトリップ」での単位付与もあり得る。あくまでも教育活動というのが前提。その意味を忘れないように。学生と教員との連絡、チェックを怠らずに。
○「ナンバリング」に関しては、無駄な科目が見えてくることや、わかりやすくなるということもあるので、ぜひ取り組んでほしい。
○基本的な計画の中で（このグローバル人材育成推進事業で）トライアンドエラーを、やっていただきたい。
○意識を変えていくこと。教員の意識を変えること。（事業の推進・補助期間である）残り4年間で、学内の教職員も学生も変わっていくことが大切。
○カリキュラムの策定時期と時代変化のニーズによって変更も不可能ではない。（新学科開設に伴うカリキュラムの扱い）
○「亜細亜大学」という名称からも、アジアに力を入れてもらいたい。
○英語力についても、企業の受け入れ基準といわれるTOEIC®730点の層をつくるかが重要課題だ。
○企業のグローバル化に合わせ、アジアの場合、多少ブロークンでもいいから英語を使えるように。

平成24年度グローバル人材育成推進事業　実地調査

■日　時　平成25年12月10日（火）　9：30～15：00

■場　所　国際交流センター打ち合わせ室

■調査員　文部科学省高等教育局高等教育企画課
国際企画室調整係長　庄司祐介氏
専門官　清水正樹氏
国際企画室調整係　村田佳美氏

■本学出席者
栗原副学長、新井国際関係学部教授、志賀国際交流センター部長、千葉管財課長、岡部財務課長、西川国際交流課長、矢吹国際交流課書記

開始に先立ち、国際交流センター部長から挨拶及び出席者の紹介、用意した資料の説明があった。続いて栗原副学長、新井国際関係学部教授から、24年度グローバル人材育成推進事業についての概要説明があった。

文部科学省・庄司氏より、本日の調査の進め方について説明があり、続いて下記の通り調査のポイント等について説明があった。

このあと、調査員3氏による帳票類の確認作業に入った。その中で確認事項等があった場合、適宜確認したいとの意向により、本学関係者は会場を離れた。作業の前に、西川国際交流課長から稟議書及び予算管理簿の確認方法、千葉管財課長から伝票の確認方法の説明があった。

西川国際交流課長に対し、全般についての質問、指摘があった。

さらに、財務課長に伝票抽出の依頼があった。

このほか、旅費に関する計上科目（主に海外出張時のレート差額）を予算管理簿から抽出するよう要請があった。

アンプセットの現物を確認するため、西川国際交流課長が3氏を国際交流ラウンジに案内した。

14時35分、調査の総評が文部科学省3氏より行われた。

主に庄司氏から、講評や指摘事項の確認があった。

最後に、12月15日（日）のGo Global Japanイベントについて、意見交換が行われた。

海外出張報告

多文化インターンシップ

シンガポール、マレーシア（9月）

●訪問先国……シンガポール、マレーシア（ペナン）
●出張期間……平成25年9月9日～9月16日
●出 張 者……国際関係学部教授　新井敬夫
国際交流課参事補　寺尾浩一
●主な目的……「多文化インターンシップ」実施予定候補地（シンガポール・マレーシア ペナン）の視察と現地企業等との打ち合わせのため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
9月10日（火）	〔午後〕 FREPENKA（ペナン州政府）副代表 Invest Penang : General Manager Senior Executive Manager	本学のグローバル人材育成の取り組み説明とインターンシップ学生の受入れ依頼。先方からは、日本人大学生のインターンシップ受け入れ事例等の説明のほか、期間、経費、ビザ等、受け入れに際して確認すべき問題点が告げられた。
9月11日（水）	〔終日〕 工業開発区視察及びインターンシップ時の宿舎視察	第1～第4工業開発区の立地状況と進出企業を把握。工場労働者の寮に代わる安価宿舎の場所、値段等を確認。市内移動の際の交通機関と安全性の確認。
9月12日（木）	ペナンからシンガポールへ	移動のみ
9月13日（金）	〔午前〕 統括・ハブ機能研究所　Managing Director 〔午後〕 Vivid Creation　Managing Director	〔午前〕インターンシップ学生の受け入れ事例、会社の業務内容、シンガポールでの日系企業進出傾向、最新のシンガポール法律事情等のブリーフィング。本学の学生のインターンシップ受け入れ依頼。 〔午後〕インターンシップ学生の受け入れ事例、会社の業務内容のブリーフィング。本学の学生のインターンシップ受け入れ依頼。
9月14日（土）	〔午前〕 Prestige International Sin.　Managing Director 〔午後〕 Compass Holdings　Director	〔午前・午後〕インターンシップ学生の受け入れ事例、会社の業務内容のブリーフィング。本学の学生のインターンシップ受け入れ依頼。
9月15日（日）	〔終日〕 インターンシップ時の宿舎視察	学生たちが安価で安全に長期間宿泊できる施設を視察。

シンガポールでのインターンシップ（パイロットプログラム）の様子

●総 括

ペナン州政府機関との打ち合わせは、インターンシップの受け入れを想定したもので、具体的かつ細部にわたる話し合いとなった。インターンシップ生を送り出すに当たり、宿舎を含めた安全面を最優先しなければならず、比例して料金が高くなってしまう。見極めが非常に重要だと感じた。

さらに、前回受け入れた日本人大学生の際には、少額ながら賃金が支払われていた様で、このシステムをそのまま受け入れてしまえば、ビザ取得の問題が発生する。ペナンに学生を送る際には今後準備しなければならないことが多くなる。

シンガポールでは、数か月前に実施された総選挙で与党PAPが大敗北をした結果、外国からの非移民の受け入れが難しくなっているようであった。シンガポール人の雇用を確保するための新たな法律が作られたそうである。

しかしながら、企業によっては学生を短期間（30日以内）で受け入れ、就業体験をしている学生もいたり、基本的にはヒューマンネットワークの強弱で、学生の受け入れを決めているようである。シンガポールに係らず、東南アジアでこの種のプログラムを展開するためには、どうしてもヒューマンネットワークの構築が欠かせない。

シンガポール国内だけでなく、国外からも在シンガポールに働きかけを行えるような人間関係の構築を進めなければならない。

また、シンガポールにおけるホテル料金は、日本と同等もしくはそれ以上で、安価な宿泊施設もあるが、安全面は相当にチェックをしなければならない。これも実施までに解決しなければならない大きな課題である。

シンガポール、マレーシア（2月）

●訪問先国……シンガポール、マレーシア（ペナン）
●出張期間……平成26年2月25日～3月5日
●出 張 者……国際関係学部教授　新井敬夫
国際交流課参事補　寺尾浩一
●主な目的……多文化インターンシップでの学生受け入れに関する詳細協議のため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
2月26日（水）	〔午前〕 統括・ハブ機能研究所　Managing Director Compass Holdings　Director 〔午後〕 Media Japan（Asia X）　Managing Director Prestige International Sin.　Managing Director	〔午前・午後〕インターンシップ生の受け入れを正式依頼、受け入れ時の諸問題を把握、解決方法を協議。 宿舎に関しては、決定後に各社へ報告することを確認。 正式依頼に際しての提出書類の確認。
2月27日（木）	〔午前〕 Vivid Creation　Managing Director 〔午後〕 インターンシップ中の宿舎視察	〔午前〕インターンシップ生の受け入れを正式依頼するも受け入れ困難との回答。 〔午後〕 予約方法、支払方法の確認。
2月28日（金）	〔午前〕 マイツグループ （A. I. Network Singapore PTE. LTD.） Managing Director 〔午後〕 本学学生取材	〔午前〕本学のグローバル人材育成の取り組み内容を説明。インターンシップの受け入れ依頼。回答は後日。 〔午後〕パイロットプログラムでシンガポールでインターンシップを経験している本学学生に、生活全般、業務内容等の情報収集。
3月　1日（土）	〔午前〕 インターンシップ中の宿舎視察 〔午後〕 本学学生取材	〔午前〕予約方法、支払方法の確認。 〔午後〕パイロットプログラムでシンガポールでインターンシップを経験している本学学生に、生活全般、業務内容等の情報収集。
3月　2日（日）	〔午前〕 学生取材	〔午前〕パイロットプログラムでシンガポールでインターンシップを経験している本学学生に、生活全般、業務内容等の情報収集。
3月　3日（月）	〔終日〕 マレーシア・ペナン州にてインターンシップ準備	マレーシア・ペナン州バヤンレパス自由産業区Globetronics 社担当者と同社にてインターン受け入れに関する協議、および工場・オフィス施設、提供プログラムの確認。午後、ジョージタウン市内およびバヤンレパス自由産業区地理状況、治安状況確認。
3月　4日（火）	〔午前〕 マレーシア・ペナン州ジョージタウン市 〔午後〕 バヤンレパス自由産業区	〔午前〕在ペナン日本総領事館と当地事情や治安状況に関する情報交換および本学の取り組み説明（領事、副領事面会）。 〔午後〕Jabil社にてインターンシップに関する協議および工場・施設確認（Jenny See氏他2名）。提供プログラムの確認。

●総 括

シンガポールにおいては、4社から本学学生をインターンシップ生として受け入れてくれるとの内諾をもらった。宿舎等、解決をしなければならない問題はあるものの、インターンシップ実施が可能となった。

1社に関しては、初訪問で本学の概要、グローバル人材育成の取り組み等を説明し、後日の回答を待つこととなった。

ペナンにおいては、事前にインターンシップ受け入れを表明していた2社を訪問し、工場およびオフィス、施設の確認を行った。また、担当者と面談の上、企業の概要説明を受け、本学のインターンシップの趣旨を説明した。受け入れに関して、基本合意に達した。本件につき、当地の本邦総領事館を訪問し、情報を共有すること、また今後も情報交換を継続することを確認した。

マレーシア・ペナン州政府との交渉

中　国（9月）

●訪問先国……中国香港特別行政区および中国深圳
●出張期間……平成25年9月1日～9月5日
●出 張 者……国際関係学部教授　新井敬夫
アジア研究所教授　遊川和郎
●主な目的……グローバル人材育成推進事業「多文化インターンシップ」実施予定候補地視察および打ち合わせ

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
9月 2日（月）	〔11：30～13：30〕 深圳OptiRom社　会長および同社経理他 〔13：30～15：30〕 深圳日技城　総務部長 〔19：00～21：00〕 在香港日本総領事館　領事3名および専門調査員1名 ㈱ゆうちょ銀行香港駐在員事務所　副所長	インターンシップ受入れ状況聴取と参加学生からの意見聴取。 同社のインターンシップ受入れの現状、同地域の治安状況、宿舎等の確認、留意事項の整理等。 香港・華南地区の日系企業動向、在留邦人、治安状況を含めた全般的な意見交換。
9月 3日（火）	香港側のインターンシップ環境調査、主として中環のビジネス街付近 （香港恵理有限公司訪問から予定変更）	地下鉄、公共交通、タクシー、宿発施設、食事等の調査
9月 4日（水）	九龍側のインターンシップ環境調査（香港恵理有限公司訪問から変更）	地下鉄、公共交通、タクシー、宿発施設、食事等の調査

●総 括

(1)深圳でのインターンシップの受け入れに関する業務内容、勤務時間、受け入れ人数、滞在先（寮・宿舎）について協議し、概ね問題がなく、次年度の実施に向けて合意した。
(2)現在、インターンシップ実施中の他大学学生の様子を視察し、感想を聴取した。
(3)実施に向けて今後具体的な連絡を取り合うことでも合意した。
(4)「多文化社会」である香港でもインターンシップを実施すべく、いくつかの候補企業をリストアップしたが、今回は実施見送りとなった。ただし、今後の香港でのインターンシップ実施に向けて、交通、宿泊事情、生活環境（物価等）の予備調査を行った。
(5)香港でのインターンシップは、宿泊予算が高くなりがちであるため、安全かつ経済的負担の少ない滞在方式を考慮しなければならない。

韓　国（9月）
AUGP含む

●訪問先国……韓国
●出張期間……平成25年9月10日～9月15日
●出 張 者……アジア研究所教授　奥田　聡
国際交流課書記　　矢吹知大
●主な目的……多文化インターンシップ（韓国）開拓、AUGP（韓国）プログラム内容発展のための派遣先大学教員との面会及び留学中の学生指導

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
9月10日（火）	ソウル市内生活環境調査	学生行動範囲の生活環境の確認
9月11日（水）	対外経済政策研究院（KIEP）研究員	インターンシップ受け入れ可能性についての協議
9月12日（木）	日本貿易振興機構（JETRO）ソウル事務所 所長、地域交流チーム次長	インターンシップ受け入れ可能性についての協議
9月13日（金）	慶熙大学校国際教育院　院長、客員助教授	授業視察、企業見学についての協議
9月14日（土）	インターンシップ資料収集及び整理	主に宿舎に関する資料収集

●総 括

次年度3年生の多文化インターンシップの希望者数が明らかになりつつある中、次年度に関しては希望人数を充足できる実習先が確保できそうであり、韓国に関しては見通しが明るいと言える。来年3月の出張時には、宿舎の問題等を解決した上で、具体的な受け入れ期間や実習内容について協議したいと考えている。

AUGP韓国に関しては、中級以上のクラスでは積極的に参加し、留学前よりも語学能力が向上している様子を確認することができた。視察したクラスのうち初級クラスでは、本学学生だけではないが、自信がないのか積極的に発言する姿勢がやや物足りない日本人学生がみられた。グローバル企業への企業見学の実施を検討いただいていることもあり、留学前の動機づけや事前学習について、学生の意識を高く向上させる取り組みを行っていきたい。

韓　国（3月）

●訪問先国……韓国
●出張期間……平成26年3月26日～3月30日
●出 張 者……アジア研究所教授　奥田　聡
国際交流課書記　　矢吹知大
●主な目的……多文化インターンシップの受け入れ企業、団体等との打ち合わせ（実際に受け入れてもらえる人数等の具体的な協議）

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
3月27日（木）	日本貿易振興機構（JETRO）ソウル事務所 所長、地域交流チーム次長	2名の受け入れ可能人数の確認
3月28日（金）	対外経済政策研究院（KIEP） 国際巨視金融室長、日本チーム長	1名の受け入れと協議
3月29日（土）	建国大学校商経大学教授	交流協定及び大学でのインターンシップの可能性についての意見交換

●総 括

JETROでは、本学学生の成長に資する支援を実施いただける意向が示された。その期待に応える人材となるよう、学生には事前の準備をしっかり行い、実習中は迷惑となるような行為をしないことはもちろんのこと、成長したと所員に感じてもらえるような実習を行うことを強く期待したい。

KIEPでは、国際巨視金融室長と日本チームが連携し、日本チームで実習を行わせる意向が示された。本学学生が1人で実習を行うという面からも、JETROでの実習学生以上に責任感を持ち、大きな成果を挙げることを強く期待したい。

中　国（9月）

●訪問先国……香港、中国（深圳）
●出張期間……平成25年8月31日～9月3日
●出 張 者……国際関係学部教授　新井敬夫
　　アジア研究所教授　遊川和郎
●主な目的……インターンシップ受け入れ先との打ち合わせ

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
9月 2日（月）	〔11：30～13：30〕 深圳OptiRom社　会長および同社経理 他 〔13：30～15：30〕 深圳日技城　総務部長 〔19：00～21：00〕 在香港日本総領事館　領事3名および専門調査員1名 ㈱ゆうちょ銀行香港駐在員事務所　副所長	同社のインターンシップ受入れ状況聴取と参加学生からの意見聴取。 同社のインターンシップ受入れの現状、同地域の治安状況、宿舎等の確認、留意事項の整理等。 香港・華南地区の日系企業動向、在留邦人、治安状況を含めた全般的な意見交換。
9月 3日（火）	移動　香港→日本帰国	

●総 括

前年度（13年2月）に遊川が訪問した受入れ候補先との実施に向けた詳細打合せ。詳細は、新井の報告書（P.14）に記載。

遊川は8月30日に大連で開催されたシンポジウムに参加後、9月1日に大連から香港に移動。同日、新井と合流した。

インド（3月）

●訪問先国……インド（バンガロール・デリー）
●出張期間……平成26年3月18日～3月24日
●出 張 者……国際関係学部特任教授　九門　崇（3/21まで）
　　国際交流課参事補　　寺尾浩一
●主な目的……多文化インターンシップ実施予定候補地の視察と現地企業等との打ち合わせのため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
3月19日（水）	〔午後〕 九門特任教授と打合わせ、訪問先の場所等確認	バンガロールでの訪問予定先企業等へのアクセス方法を確認しつつ、交通状況、安全性の確認を行った。
3月20日（木）	〔午前〕 バンガロールでインターンシップを実施している企業担当者との意見交換 〔午後〕 Goen Consulting Pte.Ltd 訪問 Chief Executive Officer との意見交換	民間企業主催による現地企業でのインターンシップ実施期間中であり、運営上の問題点等に関しての意見交換を行った。 左記会社は、在バンガロール日本人駐在員向けに情報誌を出版しており、現地での生活、安全面、交通事情等の情報を提供してもらい、さらに日系企業の展開動向についての意見交換を行った。
3月21日（金）	〔午前〕 JETRO 訪問 Director-Research からの現地ブリーフィングと意見交換 〔午後〕 日系ホテル他企業見学 The Chancery Sales & Marketing Manager Assistant Sales and Marketing Manager 〔夜〕 九門特任教授 バンコック経由→成田着	現地ブリーフィングを受け、日系企業の進出状況、駐在日本人の増加傾向等を把握し、実施の際の受け入れ企業選定のデータとすることができた。また、インド南部（バンガロール－チェンナイ）の今後の展開内容等を知ることができ、本学のプログラム構築の際に大変有益なものとなると確信した。 現地には日系のホテルが存在し、インターンシップの受け入れ可能性を調査するとともに、担当教職員の宿舎としての適性を確認した。また、その他企業を見学し、学生たちのインターンシップ訪問先としての適性を確認した。

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
3月22日（土）	〔午後〕 インド進出企業の本学卒業生と生活事情等に関する意見交換	本学卒業生の事務所は、グルガオンという地域に所在しているが、インド北部への日系企業の進出度合、日本人駐在員の動向等の情報を入手でき、現地の安全性等を確認することができた。
3月23日（日）	〔午前〕 日本人向けホテル訪問 The Metropolitan Hotel Nikko 〔午後〕 在グルガオン日系企業訪問と周辺視察／留学エージェントとの打合わせ	デリーにて日本人駐在員が多く宿泊しているホテルを訪問し、インターンシップ受け入れの可能性を確認。 グルガオンには多数の日系企業が既に進出しており、その進出理由等、さらには周辺の安全面等の調査を行った。
3月24日（月）	〔午前〕 日系企業視察 NEC Technology India Ltd. Deputy General Manager Deputy Manager（2名） YAMAHA　Managing Director 〔午後〕 現地企業視察 91 Spring BOARD：Founder （The Startup Growth hub） ill gaming：CEO Primaseller：FOUNDER & CEO	訪問先日系企業での日本人学生のインターンシップ生としての受け入れ実績、受け入れた際の業務内容との説明を受けた。 訪問先企業は、アントレプレナーが多数所属するインキュベーターであり、日本人学生に対する要望は強く、その詳細を確認した。

●総 括

今回の出張の主目的地は、インド・バンガロール地域だったが、デリーでのトランジットだったため、合理的観点から、デリーでの企業訪問、さらには日系企業進出の新興地域（グルガオン）での調査も行った。

デリー、グルガオンとバンガロールでは、同じインドでも各地の企業文化は違い、その企業構成員の性格にも相違があることを知ることができた。

本学の学生をインドに派遣し、インターンシップを経験させるうえで、受け入れ企業の担当者の性格は、短期間でのインターンシップであるが故に、KFSの重要な一項目となると感じた。また、バンガロール、デリーの両地域で、欧米からの大学生等若者をインターンシップ生として受け入れた長い経験があるようで、インターンシッププログラム内容は、比較的実践的であり、ある程度の技能、スキルが必要なものが多かったと思われる。さらに、インキュベータ内の多くのインド人アントレプレナーは、日本人学生に対し、単に興味を持っているだけでなく、多くの要望を持っていた。特に今回お会いした方は、近い将来、日本への進出を計画しており、日本人学生を単なるインターンシップ生としてだけではなく、ある種のビジネスパートナーと捉えている方が多かった。それ故に、学生の能力、スキルに関しての質問も多く、インドでのプログラムを実施することが決まった場合、英語能力以外の能力開発も含めた準備が必要だと感じた。

いずれにしても、インドの人口の多さと拡大する市場は、多くの企業に魅力的に映っており、本学学生が就業体験をする環境としては、大変興味深い地域であると実感した。

インド・デリーの街中

多文化フィールドスタディー

ベトナム（8月）

●訪問先国……ベトナム（ホイアン市・ホーチミン市）
●出張期間……平成25年8月7日～8月14日
●出 張 者……国際関係学部講師　大塚直樹
●主な目的……多文化フィールドスタディー科目実施にかかる現地予備調査、新規フィールド候補地の開拓。

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
8月 7日（水）	移動日（NRT-HAN-DAD）、ホイアン旧市街	夜間の世界遺産区周辺の治安確認
8月 8日（木）	世界遺産区（博物館・資料館など）	観光客へのインタビューの可能性の模索、学生の食事環境の確認
8月 9日（金）	インスペクション先ホテルなど	リゾート地域のホテルインスペクションの予備調査
8月10日（土）	移動日（DAD-SGN）	文献資料収集
8月11日（日）	ホーチミン市旧市街	歴史地理的な土地利用調査の可能性の模索
8月12日（月）	ホーチミン市内の資料館・博物館	展示内容の確認、訪問可能性の模索
8月13日（火）	ホーチミン市内中心部	新規フィールド開拓（ホーチミン市中心部の都市景観について）

●総 括

今回は、二度目の予備調査であり、前回の枠組みを再確認するとともに、新たな項目も検討することができた。それ以外では、現地事情が常に変化しており、最新情報の把握が必要なことを再認識した。特に参加者のなかに留学生がいる場合には、国際情勢との関係で、ビザ取得の問題等を早めに検討する必要がある。

また、今回は実際のフィールドスタディーとほぼ同時期にホイアンに滞在した。季節的に日差しが強いため、直射日光対策を講じる必要があること、昼の時間帯は必要最低限の外出にとどめ、ホテル内でできる作業にあてるなどの工夫が必要であることを確認できた。また、世界遺産区内に数カ所の公衆トイレが設置された。

したがって、衛生状態は前回よりも改善していると判断できる。今回、学生のフィールド調査時の移動を容易にするために、自転車レンタルをする可能性も模索した。しかし、交通ルールが違うため、交通事故の可能性が高くなること、自転車自体の質があまり高くなく、パンクなど頻繁に故障している様子を見かけトラブルが増えそうなことなどから現状では見送った。今後の検討課題としたい。

最後に、前回も指摘したとおり世界遺産区内ではFree Wi-Fiを使用できるので、SNS等を活用した教員を含めたグループ間のリアルタイムでの情報共有についてはぜひとも実行したい。なお、新規フィールド（ホーチミン市を中心としたベトナム南部地域）開拓は、今後も継続して実施可能性を検討してゆきたい。

ベトナム・ホイアン市場

韓　国（8月）

●訪問先国……韓国
●出張期間……平成25年8月17日～8月28日
●出 張 者……国際関係学部教授　金　柄徹
●主な目的……多文化コミュニケーション学科専門科目「多文化フィールドスタディー」の平成26年度開講に伴う、専門ゼミ学生によるパイロットプログラムの現地指導及び韓国内での現地調査のため。

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
8月18日（日）	民俗博物館・景福宮・明洞	見学
8月19日（月）	明洞・清渓川及びNANTA	アンケート調査実施と講演見学
8月20日（火）	慶熙大学構内	アンケート調査実施
8月21日（水）	板門店（JSA）	見学
8月22日（木）	博物館・美術館・大学街・映画館など	自由見学
8月23日（金）	学生：仁川→成田 金：ソウル→済州（済州島）	移動
8月24日（土）	中文観光団地	フィールドワーク候補地調査
8月25日（日）	済州→釜山	移動
8月26日（月）	チャガルチ市場・国際市場	フィールドワーク候補地調査
8月27日（火）	海雲台・広安里・釜山大学	フィールドワーク候補地調査

●総 括

(1)来年度開講の、多文化コミュニケーション学科専門科目「多文化フィールドスタディー」における夏季フィールドワーク実施に向けてのパイロットプログラムとして、とても有意義な出張となった。具体的には、調査の全体日程・移動経路・現地での見学先・アンケート調査に適合する場所・利便性や効率の良い宿舎などの、確認と確保ができた。

(2)参加学生に現地で使える電話の携帯を義務付けていなかったが、今回問題はなかったにせよ、今後のトラブルや安全対策のために電話の携帯を前向きに検討したいと思うようになった。

(3)アンケート調査をフィールドワークのメイン作業として行ったが、異国の地で、アンケートをお願いすることは相当勇気の要るものだった。韓国語が多少話せる学生もいたが、多くがたどたどしい言葉で声をかけ、断られたり、無視されたりもした。挫けて相当落ち込んでしまう場合もあったが、失敗と挫折を経験しながら、またそれを乗り越える体験もできたと思う。

(4)1週間という短い時間ではあったが、書籍やマスコミなどの資料からは知ることも、味わうこともできない臨場感や現地の人々との触れ合いを通し、自分の「先入観」を改め、幅広い（＝グローバルな）視野を身につけるきっかけにしていたと実感した。

(5)ソウルの他に、済州島や釜山にも今後のフィールドワーク候補地としての多くの魅力を感じたが、もう少し調べた上で検討したい。しばらくはソウルで実施したいと思う。

韓国・アンケート調査の様子

フィリピン（9月）

●訪問先国……フィリピン
●出張期間……平成25年9月4日～9月18日
●出 張 者……国際関係学部講師　小張順弘
●主な目的……多文化フィールドスタディ・パイロットプログラム実施のため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
9月 5日（木）	日程ガイダンス アヤラ博物館訪問 日本大使館訪問（加藤専門調査員）	・文化・歴史背景への理解 ・日比関係講義
9月 6日（金）	コレヒドール島訪問（終日）	・史跡見学
9月 7日（土）	NGO訪問（アライカプア・マニラ） イントラムロス要塞訪問 会合（JICA豊田企画調整員）	・マニラ下町見学 ・史跡見学 ・専門家による日比協力関係講義
9月 8日（日）	マニラ→セブ（5J-581）	13：55 マニラ／15：10 セブ
9月 9日（月）	現地視察（ラプラプ市・セブ市）	・史跡・現地市場等訪問
9月10日（火）	サンカルロス大学（1日目） Fr.Punzalan (副学長)	・特別講義 ・大学授業見学
9月11日（水）	サンカルロス大学（2日目） 合同フィールドワーク	・特別講義 ・大学授業見学
9月12日（木）	サンカルロス大学（3日目） 合同フィールドワーク	・特別講義 ・大学授業見学
9月13日（金）	サンカルロス大学（4日目） 合同フィールドワーク	・特別講義 ・大学授業見学
9月14日（土）	合同フィールドワーク・発表準備 サンカルロス大学との発表会 学生交流会	・現地大学生と合同調査 ・発表準備、発表会
9月15日（日）	NGO訪問（アライカプア・セブ） ホームステイ	・キリスト教系NGO住民団体の受け入れによるホームステイ交流
9月16日（月）	ホームステイ 企業訪問（Makoto Metal）	・ホームステイ先コミュニティ訪問 ・日系企業（金属加工）視察
9月17日（火）	観光施設視察（Crimson） 企業訪問（JR Express） NGO訪問（セブンスピリット）	・観光業界の現場視察及び講義 ・子供教育支援活動視察

●総 括

今回、「多文化フィールドスタディー（フィリピン）」のパイロット・プログラムとして国際関係学部担当ゼミ生（３・４年生）の希望者とともに、マニラ・セブに滞在。予定したプログラムを関係諸機関（政府関連機関、NGO団体、民間企業、現地大学など）の協力を得て無事に実施することができた。

今回の実施にあたり、手探り状態の中で関係機関などとの事前の調整を行い、安全性・費用という観点にも留意し、プログラム実施・運営にあたった。限られた時間で、当初予定していた(1)国際関係への理解（日比関係）、(2)現地体験、(3)青年交流などの目的を、(1)現地訪問、(2)講義・ブリーフィング、(3)現地体験などのバランスをとりながら達成できたと考えている。このような性格のプログラムは、日本からの訪問者及びフィリピン受け入れ関係者との合意の上の協力がない限り実施は不可能であり、双方が作り上げていくという大切さを共有する機会となったとも感じている。

現地プログラム実施中、参加学生が役割分担を行い（リーダー、記録担当、会計担当、撮影担当など）、ほぼ毎日それぞれがその日の出来事を振り返るミーティングを実施した。同じ体験をしていても、参加者による感じ方や捉え方の違いを認識し、意見交換をする機会として有意義であった。

今回の現地プログラムを実施後、次回実施に向けた課題・留意点を以下に指摘する。

フィリピン・フィールドワークの様子

＜プログラム実施前＞

- 訪問先に関する事前知識の獲得
  フィリピンの文化・歴史の訪問地や訪問先機関についての背景
- 衛生・安全面の自己管理方法の理解
  現地滞在（東南アジア圏）を想定した自己管理に関する基礎的知識
- 語学力・プレゼンテーション力の向上
  自己紹介、プレゼンテーション方法などの基礎技術

＜プログラム実施中＞

- 体調管理
  気候や食事の違い、現地滞在での疲労などを想定した自己管理方法
- 日本への連絡
  保護者、学校関係者への定期的連絡（安否確認）

＜プログラム実施後＞

- 成果報告
  現地研修実施後の成果報告（報告書、発表など）の機会の設定

今回参加した学生らの感想を参考にし、実施期間・実施場所・個別プログラム内容・費用についても現地受け入れ先機関と調整を行いつつ、次回現地プログラムを計画・実施したい。

AUAP 亜細亜大学アメリカプログラム

サンディエゴ

●訪問先国……米国・サンディエゴ
●出張期間……平成26年3月5日～3月10日
●出 張 者……国際関係学部教授　江川美紀夫
国際交流課参事補　寺尾浩一
●主な目的……サンディエゴ州立大学留学中の学生に対するキャリア研修を実施するため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
3月 6日（木）	サンディエゴ州立大学 ALI 訪問	本学学生が所属するAmerican Language Institute の代表者及び担当者と面会し、運営上の改善点等を確認。また、本学学生対象のグローバルビジネスセミナーの情報を提供し、今後の協力依頼。
3月 7日（金）	グローバルビジネスセミナー開催 〔午前〕 現地起業家による講演会 〔午後〕 グローバル企業訪問 ①Panasonic （Sanyo North America Corporation）社訪問 ②Lighthouse San Diego 社訪問	現地の日本人起業家により、「海外で働くということ」をテーマに講演会を開催し、学生たちが海外で働く上で必要なコンピテンシーを確認した。企業訪問では、各社の業務内容を把握し、日本マーケット、他国とのマーケットとの関わりを勉強し、グローバル企業が必要とする人材のコンピテンシーを確認した。また、グローバル企業社員から、本学学生に対して、今後の勉強方法、様々な海外体験について、それぞれ経験に基づいて指導された。
3月 8日（土）	グローバルビジネスセミナー開催 〔午前〕社会人フォーラム開催 日本人留学生との交流ランチ 〔午後〕振り返り 車両にてサンディエゴ→ロサンジェルスへ移動	社会人フォーラムでは、現地で活躍している日本人ビジネスパーソンと、本学学生が3つのグループに分かれ、海外で仕事をすることの楽しさ、難しさ等について意見交換を行った。 次に、日本人留学生（UCSDに正規留学：現地留学生会幹部）と、就職活動についての意見交換を行った。 振り返りの会では、2日間のプログラムを通して学んだことを纏め、さらに今後のアクションプランを作成し、各人が発表した。

●総 括

留学終了直前に本研修を実施した大きな狙いは、語学力が最大に向上している状態で、現地企業を訪問することで、英語はツールであるいうことを実感させることにあった。さらに、現地で活躍している様々な日本人、アメリカ人等に現地（サンディエゴは多文化共生地域でもある）で働く上で、必要とされるコンピテンシーを気づかせることにあった。

サンディエゴでのキャリア研修

今回の研修協力者からは、語学力が高いことだけでは、海外で働くには不十分で、どちらかといえば、「問題発見・解決力、協調性」など、グローバル人材に必要とされている「差異、認知、協働」が強調された。学生たちは2年生だったこともあり、英語能力さえ高ければ、国内外に係らず、就職活動が楽に進められると考えていたようだったが、現場での気づきにより、ある種のカルチャーショックを受けていた様だった。

本学独自のアセスメントシートの各評価項目の重要性が確認されただけでなく、学生たちが現場の考えを直接知ることができたことは、所期の目的をはるかに超える成果を上げることができた。

他の海外留学プログラムとも、今回の実績を共有し、さらにプログラム内容の充実化に生かす必要がある。

AUGP 亜細亜大学グローバルプログラム

中　国

●訪問先国……中国
●出張期間……平成25年8月20日～8月28日
●出 張 者……国際関係学部准教授　三橋秀彦
国際交流課書記　　富田祐香
●主な目的……AUGP（中国）の派遣先大学や協力関係にある企業を訪問し、プログラムの実施状況を確認するとともに、学生のキャリア形成に関する指導をより効果的に行うには、今後どのようなプログラムの深化が可能かを中国側カウンターパートと協議するため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
8月20日（火）	〔午後〕北京市内生活環境調査（三橋）	派遣先大学周辺の環境調査
8月21日（水）	14：00～16：30 企業訪問同行（出版社）	中国における出版事業に関するヒアリングおよび社内視察
8月22日（木）	14：00～17：00 企業訪問同行（ホテル）	中国における日系ホテルの施設見学並びに各部門の日本人担当者からのブリーフィング。施設見学終了後、6名の日本人スタッフと学生との座談会の実施。
8月23日（金）	11：00～　AUGPパートナー企業北京事務所訪問。担当者と面会	企業訪問のアレンジおよび現地サポートを担当している企業への訪問および業務調整。
8月24日（土）	北京師範大学校内見学	学生寮および校内の視察（生活環境の確認）。
8月25日（日）	北京市内の生活環境調査	派遣先大学周辺の環境調査。
8月26日（月）	15：00～17：00 北京師範大学留学生事務室訪問 短期留学担当者と面会	担当スタッフと面会し、プログラムの進捗や運営方法についての打ち合わせ。
8月27日（火）	企業訪問同行（学習塾）	日本の学習塾の北京での展開状況及び中国の幼児教育市場に関するインタビュー（諸事情により、教室を訪問できないため、大学内のホテルに企業の方を招き座談会を実施し、終了後は、学生とこれまでの企業訪問について総括を行った）。

●総 括

■プログラム全体の運営について

北京師範大学及び協力企業との打ち合わせでは、研修の進行状況について意見交換を行い、特に大きな問題は見当たらないことを確認した。また、今年度問題が発生した研修費用の支払い方法について担当者と支払プロセスの確認も行った。

北京師範大、留学生事務室

■企業訪問について

「日本式サービスの対中展開」をテーマに、訪問先として希望順位の高かった日系の出版社、ホテル、教育産業の3社を訪問した。ホテルを除き、2001年の中国のＷＴＯ加盟以降初めて参入が許され、日本語情報の乏しい分野である。学生たちは日中関係が厳しい中、日本式サービスを認知してもらうために日本人スタッフとしてどのような工夫をしているかを中心に、インタビューを実施した。

■学習環境／生活環境について

今回は日程の関係で、派遣先大学での授業視察を行うことができなかったが、派遣先大学担当者との打ち合わせや学生との面談で、学習状況や生活環境について確認した。

今年は、国際クラス（B日程）では、13ヵ国46名（内48パーセントが日本人学生）の学生が参加。クラスについては、初級（1クラス）、中級（3クラス）、高級（1クラス）の5クラスが開設され、

本学の参加学生3名は、現地到着後の中国語レベルチェックの結果、初級（1名）、中級（2名）のクラスで研修を受けた。

宿舎は、学内の第2学生寮を見学。部屋は2人1部屋で、ベッド、学習机、テレビ、浴室があり、キッチンと洗濯機は共有である。周辺には食堂やコンビニがあり、生活には便利な立地である。大学周辺の治安については、夜のひとり歩きを除いて特に問題は見受けられなかった。

■今後の課題、展開

企業訪問については、来年度からは訪問先の業種を増やし、研修の最終週（午後）に毎日実施する予定である。今後はより効果的な事前・事後の指導を行うため、参加学生の関心に合わせて、少人数方式で企業訪問を行い、かつ平成26年度年度から新設される本学の多文化インターンシップ及びフィールドワーク（中国）とも連携し、プログラムの内容充実を図りたい。

オーストラリア

●訪問先国……オーストラリア
●出張期間……平成26年2月25日～3月5日
●出 張 者……経営学部准教授　岡　久行
国際交流課書記　富田祐香
●主な目的……AUGP派遣先大学スタッフとの面会及び参加学生との面談を通じ、プログラムの充実及び学生の留学成果の向上を図るため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
2月26日（水）	10：00～　シドニー大学訪問英語教育センター訪問。以下担当者と面会 Manager, International Relations Education Services Officer 〔午後〕空路ホバートへ移動	授業見学、学習環境についての確認
2月27日（木）	10：00～　タスマニア大学語学センター訪問 以下、担当者と面会 Acting Centre Manager Study Tour Coordinator 15：00～　ホバート市内の生活環境調査	授業見学、学習環境についての確認 プログラムの進捗や運営方法についての打ち合わせ
2月28日（金）	10：00～　AUGP 参加学生フィールドスタディ候補先の視察 15：00～　ホバート市内の生活環境調査	次年度フィールドワークを行う候補地の調査 学生の滞在先付近の環境調査
3月　1日（土）	〔午後〕シドニーへ移動 AUGP パートナー企業担当者と合流	インターンシップ視察の流れと進捗状況を確認
3月　2日（日）	〔終日〕シドニー市内の生活環境調査	事前研修会で使用する参考資料の収集 学生の滞在先付近の環境調査
3月　3日（月）	10：00～　インターンシップ先訪問（クルーズ）担当者と面会 14：00～　インターンシップ先訪問（長期滞在者用ホテル）担当者と面会 17：30～　学生との面談、取材打ち合わせ	インターンシップ環境の調査 学生面談 取材
3月　4日（火）	10：00～　インターンシップ先訪問（カフェ）担当者と面会 13：00～　インターンシップ先訪問（天文台）担当者と面会 15：00～　インターンシップ先訪問（雑貨店・カフェ）担当者と面会	インターンシップ環境の調査 学生面談 取材

●総 括

■語学（英語）授業について

【シドニー】　シドニー大学での語学授業は、初級から上級までの学生が一緒になり行う授業を見学した。同大学では、レベル別の授業以外にも定期的にこのような授業を行い、同じクラス以外の学生との交流を促しているとのこと。見学時は、映画を教材として、グループワーク中心の授業が行われており、本学学生の多くが初級から中級のクラスで学んでいた。今回の視察で、シドニー大学の授業からインターンシップ開始までの流れを確認できたことは非常に有意義であった。

【タスマニア】　タスマニア大学での語学授業は、初級から上級までのクラス分けの基準が変更になったとのことで、本学学生が学ぶ初級・中級クラスを中心に、担当者と授業の内容と評価について話し合った。見学した初級クラスは、半数以上が日本人学生で構成されていたが、教員が積極的に学生の発言を促していた。

■エコボランティア、フィールドアクティビティについて

【タスマニア】　今年度のアクティビティは、週2回のエコロジー講義、週末のエコボランティアやフィールとトリップ等タスマニアの自然について学ぶ内容が中心。「英語研修＋α」の内容を充実させるべく、今後は企業見学や特別グループワーク等ついて、どのような内容・条件で実施が可能かタスマニア大学と具体的に協議していく。

シドニー大キャンパス

■インターンシップについて

【シドニー】　今回は、ホテル、販売店、カフェ、クルーズ会社やシドニー天文台を視察し、担当者及び学生と面談した。今後は、より効果的なインターンシップを行えるようにビジネスマナー研修、インターンシップ先の決定時期が早まれば、業界別の研修なども視野に入れて学生派遣前の指導に力を入れていく。1か月以上から受け入れ可能とする企業も多く、1か月以上実施した場合は、受け入れ先の業種や業務内容の幅も広がるため、今後あらゆる可能性を検討していきたい。

■今後のプログラム展開について

　タスマニアについては、今後は企業見学やグループワークを中心とした研修内容を取り入れるなどしてシドニープログラムとの差別化を図り、参加者増を目指す。また、シドニープログラムについては、事前・事後の指導体制を強化し、より効果的なプログラムの実施を目指す。

アジア夢カレッジ ―キャリア開発中国プログラム―

現地受け入れ関連

●訪問先国……中国・大連
●出張期間……平成25年5月26日～6月1日
●出 張 者……アジア夢カレッジ運営委員長
（アジア研究所教授）　西澤正樹
国際関係学部特任教授　九門　崇（5/28まで）
国際交流課参事補　寺尾浩一
●主な目的……平成25年度AUCP派遣予定学生（15名）現地受入準備として、大連外国語学院漢学院及びインターンシップ先企業との協議、および大連におけるグローバル人材育成推進事業シンポジウム開催準備のため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
5月27日（月）	〔午前〕 日本法円坂律師事務所 大連代表処 大連博科人才有限公司　法人代表 日本興亜損害保険株式会社大連代表処 首席代表 遼寧傑仕孚（ジャスフ）律師事務所 日本瑞穂実業銀行股份有限公司 大連分行支店長 〔午後〕 德勤華永会計師事務所有限公司大連分所 マネジャー 日本貿易振興機構大連事務所　所長 在瀋陽日本国総領事館在大連出張駐在官事務所 所長 全日本空輸株式会社 瀋陽・大連支店　支店長 大連愛光浸漬成型有限公司　董事 総経理	留学・インターンシップ予定（15名）の企業での受け入れ依頼とその確認。 ８月末開催予定の「グローバル人材育成推進事業大連シンポジウム」開催のお知らせと出席依頼。
5月28日（火）	大連発→成田着 〔午前〕 蜻蜓文具商貿（大連）有限公司　総経理 大連慧搜网技術有限公司　経営管理部科長 〔午後〕 大連中国国際旅行社有限公司　総経理 大連漫歩広告有限公司　総経理・編集長 ホームクリニック大連　日本責任者	九門特任教授帰国 留学・インターンシップ予定（15名）の企業での受け入れ依頼とその確認。 ８月末開催予定の「グローバル人材育成推進事業大連シンポジウム」開催のお知らせと出席依頼。
5月29日（水）	〔午前〕 富士電機大連有限公司　董事長 総経理 〔午後〕 大連三島食品有限公司　総経理	留学・インターンシップ予定（15名）の企業での受け入れ依頼とその確認。 ８月末開催予定の「グローバル人材育成推進事業大連シンポジウム」開催のお知らせと出席依頼。
5月30日（木）	〔午前〕 嘉時泰国際物流（大連）有限公司　総経理 米克罗弹簧（大連）有限公司　総経理 〔午後〕 大連吉田拉鏈有限公司　総経理 大連泰和信息技術有限公司　総経理	留学・インターンシップ予定者（15名）の企業での受け入れ依頼とその確認。 ８月末開催予定の「グローバル人材育成推進事業大連シンポジウム」開催のお知らせと出席依頼。
5月31日（金）	〔終日〕 大連外国語大学漢学院　院長・担当者	８月末開催予定の「グローバル人材育成推進事業大連シンポジウム」開催のお知らせと出席依頼。 本学学生が入寮予定の新設寮の視察。 留学期間中の詳細スケジュール確認。 留学予定学生の情報・意見交換。

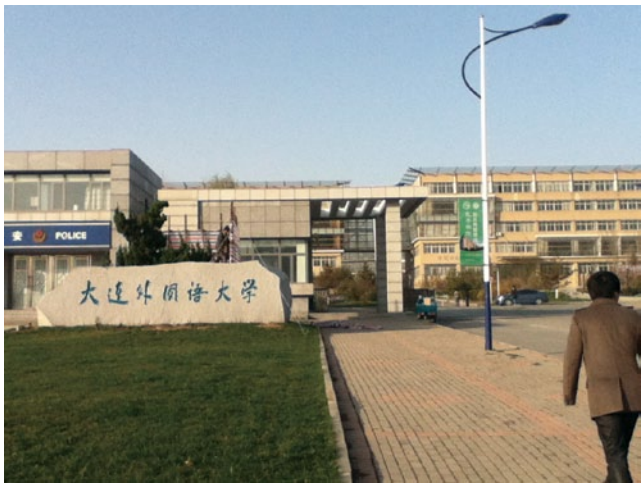
●総 括

8月末から留学する学生が決まり、その学生たちの特性、研究テーマ等をインターンシップ受け入れ企業に説明し、受け入れ依頼を行ったが、会社の事情、もしくは過去インターンシップ生として受け入れられた学生の素行等により、今年度からの受け入れを断られた企業もあった。今後の対策としては、事前研修内容の改善等を図り、学生指導にさらに力を入れなければならないと感じている。

大連外国語大学漢学院が旅順に移設され、今年度の学生が初めて旅順で生活をすることになる。その面では、生活環境を確りと調査し、150日間の留学・インターンップ期間が、より充実するものとなるようにしなければならない。

大連シンポジウムに関しては、多くの企業から賛同を得られ、我々が発表・討議する予定の内容以上のものが、できる可能性がでてきた。

今後さらに企業との詳細打ち合わせを行い、完成度を高めたいと考えている。



大連外大キャンパス

シンポジウム、インターンシップ関連等

●訪問先国……中国・大連
●出張期間……平成25年8月28日～9月7日
●出 張 者……アジア夢カレッジ運営委員長
（アジア研究所教授）　西澤正樹
アジア夢カレッジ運営委員
（アジア研究所教授）　遊川和郎（9/1まで）
国際関係学部特任教授　九門　崇（9/2まで）
国際交流課参事補　寺尾浩一
●主な目的……グローバル人材育成推進事業シンポジウム開催と「多文化インターンシップ」実施予定候補地の視察のため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
8月29日（木）	成田発→大連着 〔午前〕 シンポジウム準備のためホテル側との打ち合わせ 〔午後〕 シンポジウム登壇者との打ち合わせ	遊川・九門　移動のみ 寺尾 大学側出席者全員
8月30日（金）	〔午前〕 シンポジウム会場設営 〔午後〕 亜細亜大学グローバル人材育成推進事業シンポジウム開催	 寺尾（イベント担当業者と一緒） 大学側出席者全員
8月31日（土）	〔午前〕 アジア夢カレッジ9期生留学・インターンシップオリエンテーション及び中国人ルームメイトとの合同キャリア開発研修開催（於、大連外国語大学）	 西澤・九門・寺尾 中国人ルームメイトと日本人学生のキャリア形成を意識させる合同セミナーを開催。
9月　1日（日）	〔午前〕 日本法円坂律師事務所　大連代表処 〔午後〕 大連発→香港着	 インターンシップ生として受け入れ予定の学生の紹介及び受け入れに際しての詳細確認（インターンシップ開始時期までの準備等含む）。 遊川　移動のみ

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
９月 ２日（月）	大連発→成田着 〔午前〕 遼寧傑仕孚（ジャスフ）律師事務所 大連泰和信息技術有限公司　総経理 大連漫歩広告有限公司　総経理・編集長 〔午後〕 德勤華永会計師事務所有限公司大連分所　マネジャー 在瀋陽日本国総領事館在大連出張駐在官事務所　所長 ホームクリニック大連　日本責任者 大連慧搜网技術有限公司　経営管理部科長	九門　移動のみ インターンシップ生として受け入れ予定の学生の紹介及び受け入れに際しての詳細確認（インターンシップ開始時期までの準備等含む）。 インターンシップ生として受け入れ予定の学生の紹介及び受け入れに際しての詳細確認（インターンシップ開始時期までの準備等含む）。
９月 ３日（火）	〔午前〕 大連愛光浸漬成型有限公司　董事 総経理 大連市経済技術開発区招商中心招商一局一部 〔午後〕 大連三島食品有限公司　総経理 大連吉田拉鏈有限公司　総経理 嘉時泰国際物流（大連）有限公司　総経理 米克罗弹簧（大連）有限公司　総経理	インターンシップ生として受け入れ予定の学生の紹介及び受け入れに際しての詳細確認（インターンシップ開始時期までの準備等含む）。 ※大連市経済技術開発区招商中心招商一局一部においては、日系企業の進出状況等の情報収集。
９月 ４日（水）	〔午前〕 日本瑞穂実業銀行股份有限公司 大連分行支店長 蜻蜓文具商貿 (大連) 有限公司 総経理 〔午後〕 日本貿易振興機構大連事務所　所長 全日本空輸株式会社 瀋陽・大連支店　支店長 大連中国国際旅行社有限公司　総経理 大連恒立国際貿易有限公司　董事長 総経理	インターンシップ生として受け入れ予定の学生の紹介及び受け入れに際しての詳細確認（インターンシップ開始時期までの準備等含む）。
９月 ５日（木）	〔終日〕 大連外国語大学漢学院 院長・担当者	大連到着後の学生の様子（異文化適応状況等）、今後のプログラム運営の詳細スケジュールを確認。
９月 ６日（金）	〔午前〕 富士電機大連有限公司 董事長 総経理	インターンシップ生として受け入れ予定の学生の紹介及び受け入れに際しての詳細確認（インターンシップ開始時期までの準備等含む）。

大連シンポジウム

●総 括

大連シンポジウムは、本学にとって海外での初の大型シンポジウムであり、大連市政府、日本国領事、JETRO職員、在大連日系企業代表者、本学学長等とのセッション、また、各代表からのグローバルキャリアに関する発表は、多くの聴衆からポジティブな感想があった。大連市政府関係者からは、本学の大連での人材育成の取り組みモデルは、日本の中小企業における人材育成モデルとしても通用するのではないかとの意見もあった。

特に興味深かったのは、富山県から中学生が短期職業体験をするために、大連に来ており、シンポジウム終了後に、その中学生から「我々はグローバル人材になって海外で仕事をしなければいけないのか？」との質問に、在大連日系企業代表者から「もちろんそういうわけではないが、日本国内に海外から多くの人々が流入してきて、その人たちと一緒に仕事をしなければならない環境がすぐ来るだろうが、その時にあなたに必要なのは、グローバルな感覚でその人たちと協働することです。」との回答に、

中学生が大きく頷き、納得していたのは印象的だった。この瞬間こそが、本シンポジウムが成功裏に終わったことを証明したと確信した。

九門特任教授による、中国人ルームメイトと本学学生のキャリア開発合同セミナーは、おそらく中国では初めてのものだったと思う。特に、「就職は親が決めるもの」または、「中国社会独特のネットワークの中で就職を決めるもの」と思っている多くの中国人学生にとって、大変新鮮であったと思う。

また、現在までを振り返り（棚卸作業）、自分の適性等を両国の学生たちが、中国語と日本語の両方でコミュニケーションをとりながら、意見交換する状況は、文化的バックグラウンドを知る手法としても、大変有効的であったと思う。

セミナーの最終部分では、各自に将来をイメージさせるために、就きたい職業を決める際の一手法として、「WILL－CAN－MUST」の各領域が交わった部分が、最適であると説明され、各学生たちは興味津々の様子だった。

本セミナーは今後も継続する予定で、最終的な学生たちの留学・インターンシップを振り返らせる内容とする。

AUCP

●訪問先国……中国・大連
●出張期間……平成25年11月11日～11月15日
●出 張 者……国際関係学部准教授　三橋秀彦
●主な目的……AUCP派遣学生の現地学習指導および大連外国語大学漢学院との中国語学習体制に関する意見交換

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
11月12日（火）	10：00～12：00 大連外国語大学福利厚生施設 14：00～18：00 同大学漢学院	学生の大学内学習・生活環境に関する視察および学生との学習状況に関する個別面談
11月13日（水）	10：00～12：00 大連外国語大学外国人留学生宿舎 14：00～18：00 同大学漢学院	学生の大学内学習・生活環境に関する視察および学生との学習状況に関する個別面談
11月14日（木）	11：00～13：00 大連外国語大学漢学院　副院長 14：00～19：00 同学院	〔午前～昼〕大連外国語大学の本年度の留学生受け入れ状況、教育体制に関するインタビューおよび中国人学生のキャリア研修に関する意見交換 〔午後〕学生との学習状況に関する個別面談

●総 括

今回の出張では主として以下の3点に関する状況調査およびカウンターパートとの意見交換を実施した。（1）旅順キャンパス移転以降の、大連外国語大学における中国語教育体制の状況および「夢カレッジ」9期生の学習状況の確認、（2）同大学の宿舎等、生活環境の視察および中国人ルームメートからの「夢カレッジ生」との共同生活に関するインタビュー、（3）「夢カレッジ生」15名およびAUEP生2名との学習状況（中国語およびテーマ研究）に関する個別面談。

以上の3つの調査から、日中関係悪化以降の今般の日本人留学生の激減状況の中、同大学漢学院は可能な限りの教育支援を「夢カレッジ生」に対して行っており、また今年度からの漢学院の旅順キャンパス移転以降、中国人ルームメートとの共同生活を含む「夢カレッジ生」の学習、生活環境が旧キャンパスに比べ格段に優れたものとなっていることが確認された。また今回の調査から、日本人学生にとってルームメートとしての共同生活者は中国人学生1名だったこれまでの状況から、新たに3名（日本人学生1名、中国人学生2名）となったことである種のグループダイナミックスが発生し、宿舎という生活空間がより生活習慣、人間関係構築を含む異文化適応の訓練の場ともなり得ることが確認された。その意味でも今後の方向性として、キャリア教育の深化を目指した共同生活を含む中国人ルームメートとのより高度な相互学習のあり方が検討されてよいとの結論に至った。

セミナー等

●訪問先国……中国・大連
●出張期間……平成25年11月18日～11月22日
●出 張 者……国際関係学部特任教授　九門　崇（11/20まで）
国際交流課参事補　　寺尾浩一
●主な目的……大連留学中のアジア夢カレッジ2年生15名に対してキャリア開発セミナー実施及びインターンシップ通勤経路確認のため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
11月18日（月）	〔午後〕大連外国語大学にてキャリア開発セミナー主催	アジア夢カレッジ生及び中国人ルームメイトに対し第2回キャリア開発合同セミナーを実施
11月19日（火）	〔終日〕大連外国語大学にてキャリア開発セミナー主催	アジア夢カレッジ生及び中国人ルームメイトに対し第2回キャリア開発合同セミナーを実施
11月20日（水）	〔午前〕大連発→成田着（九門） 〔終日〕インターンシップ通勤経路確認	危機管理の観点から学生たちのインターンシップ中の各社への通勤経路を確認
11月21日（木）	〔終日〕インターンシップ通勤経路確認	危機管理の観点から学生たちのインターンシップ中の各社への通勤経路を確認

●総 括

第2回キャリア開発合同研修に関しては、第1回の同セミナーにて設定した目標の達成度合いを確認し、「できた点」「できなかった点」をそれぞれ抽出し、その原因を探った。また、それらに対する自分自身のかかわり具合も合わせて記述し、中国人ルームメイトと情報共有を図った。次に、日本人学生は「インターンシップでの目標設定」をし、中国人学生は「今後の進路（就職、進学等）を考え目標設定」をした。それぞれが模造紙に書き出し、皆の前で発表した。本セミナー終了後に、中国人ルームメイトからは「日本で留学した場合にどのような業種に就職するのか」等、九門特任教授に対し、多数の質問がなされた。第1回のセミナー時と、ここが最大の相違点であり、中国人学生のキャリアに対する意識が少しずつではあるが変化してきたと感じた。

この点は、中国から留学生を日本の大学に誘致する際に、一つの魅力なると考える。つまり、本学のキャリア教育の質の高さを中国人留学生に理解させ、日本での就職につなげることができれば、本学の大きな強みとなり、多数の留学生を獲得できるのではないかと考える。

本年度より、学生たちが留学生活をおくる環境が、大連市内キャンパスから旅順キャンパスに変わり、昨年までとは違う、通勤経路・手段を模索しなければならず、市内、開発区への安全かつ効率的なルートをそれぞれ見つけ出し、実際にそのルートをたどってみた。

大連外大キャリア研修

インターンシップ
受入企業との協議

●訪問先国……中国・大連
●出張期間……平成25年12月6日～12月14日
●出 張 者……アジア夢カレッジ運営委員長
（アジア研究所教授） 西澤正樹（12/12まで）
国際交流課参事補　　寺尾浩一
●主な目的……大連留学中のアジア夢カレッジ2年生15名のインターンシップ企業先訪問及び、大連外国語大学との打ち合わせを実施するため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
12月 6日（金）	〔午後〕 全日本空輸株式会社 瀋陽・大連支店　支店長 在瀋陽日本国総領事館在大連出張駐在官事務所 所長 德勤華永会計師事務所有限公司大連分所 マネジャー 日本貿易振興機構大連事務所　所長	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、その期間の詳細事務手続き等を確認。 期間終了後の成績評価方法についての説明。
12月 7日（土）	〔午前〕 インターンシップに関するブリーフィング（心構えとマナー研修／キャリアに関する考え方）	インターンシップ開始直前に各学生たちに再度インターンシップでの目標等を確認させる。 事前研修としてマナー研修を既に実施済みではあるが、再度マナーにつして考えさせる。 インターンシップでの経験をいかに将来に結び付けるかを考えさせる。
12月 8日（日）	市内中心部企業（インターンシップ受け入れ先）への通勤シミュレーション	在大連市内企業でインターンシップを行う学生たちが、実際の通勤経路をたどってみる。
12月 9日（月）	〔午前〕 大連愛光浸漬成型有限公司　董事 総経理 富士電機大連有限公司　董事長 総経理 〔午後〕 大連三島食品有限公司　総経理 大連吉田拉鏈有限公司　総経理	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、その期間の詳細事務手続き等を確認。 期間終了後の成績評価方法についての説明。
12月10日（火）	〔午前〕 嘉時泰国際物流（大連）有限公司　総経理 米克罗弹簧（大連）有限公司　総経理 〔午後〕 大連中国国際旅行社有限公司　総経理 大連慧搜网技術有限公司　経営管理部科長 大連泰和信息技術有限公司　総経理	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、その期間の詳細事務手続き等を確認。 期間終了後の成績評価方法についての説明。
12月11日（水）	〔午前〕 日本法円坂律師事務所 大連代表処 遼寧傑仕孚（ジャスフ）律師事務所 蜻蜓文具商貿（大連）有限公司　総経理 ホームクリニック大連　日本人責任者 〔午後〕 日本瑞穂実業銀行股份有限公司 大連分行支店長 大連漫歩広告有限公司　総経理・編集長 ホームクリニック大連　日本責任者	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、その期間の詳細事務手続き等を確認。 期間終了後の成績評価方法についての説明。
12月12日（木）	〔午前〕 大連発→成田着（西澤） 〔午後〕 大連外国語大学漢学院との打ち合わせ	移動のみ 漢学院長の退任に伴い今後の運営方針等の確認。

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
12月13日(金)	〔午後〕 大連外国語大学国際交流処長との打ち合わせ 大連愛光浸漬成型有限公司社員寮へ引っ越し（学生１名）	新漢学院学生寮の建設進捗状況及び、寮費等の確認 学生の社員寮への引っ越し動向
12月14日(土)	〔午前〕 大連三島食品有限公司 富士電機大連有限公司 大連吉田拉鏈有限公司 米克罗弹簧（大連）有限公司 の各社員寮への学生引越し	学生の社員寮への引っ越し同行

●総 括

インターンシップ生受け入れ企業は、学生の受け入れに関し、相当慣れており、開始当初と比較すれば、学生たちが従事できる仕事の内容は多少高度になり、その種類は増加した。また、社員の日本語日常会話訓練を依頼されるなど、単なるインターンシップではなく、中国人社員との関係作りまでをも意識した内容が提示されている。

大連外国語大学漢学院の新しい寮は現在建設中であり、寮内施設等の詳細説明を受けた。寮費の増額が予想され、新年度予算での対応方法を検討しなければならない。

修了式、企業訪問等

●訪問先国……中国・大連
●出張期間……平成26年1月16日～1月24日
●出 張 者……アジア夢カレッジ運営委員長
（アジア研究所教授）　西澤正樹(1/23まで)
国際交流課参事補　寺尾浩一
国際関係学部特任教授　九門　崇(1/20まで)
国際交流課長　西川修治(1/20まで)
●主な目的……AUCP修了式の開催、インターンシップ受け入れ企業訪問、大連外国語大学との来年度の打ち合わせ、キャリア開発研修開催のため

●行動日程(現地)

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
1月16日（木）	〔午後〕 德勤華永会計師事務所有限公司大連分所 マネジャー 日本貿易振興機構大連事務所　所長 在瀋陽日本国総領事館在大連出張駐在官事務所 所長 全日本空輸株式会社 瀋陽・大連支店　支店長	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、期間中の学生の仕事ぶり、態度等に関して意見聴取し、成績表等を入手する。 来年度の実施に向けた改善点等に関しての意見聴取する。
1月17日（金）	〔午前〕 日本法円坂律師事務所　大連代表処 大連博科人才有限公司　法人代表 日本興亜損害保険株式会社大連代表処 首席代表 〔午後〕 修了式開催ホテル担当者との打ち合わせ	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、期間中の学生の仕事ぶり、態度等に関して意見聴取し、成績表等を入手する。 来年度の実施に向けた改善点等に関しての意見を聴取する。 修了式開催の為の最終詳細打ち合わせ

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
1月18日（土）	〔午前〕 大連三島食品有限公司 富士電機大連有限公司 大連吉田拉鏈有限公司 米克罗弹簧（大連）有限公司 大連愛光浸漬成型有限公司 の各社員寮から大連外国語大学への学生引越し 〔午後〕 修了式開催	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、期間中の学生の仕事ぶり、態度等に関して意見聴取し、成績表等を入手する。 来年度の実施に向けた改善点等に関しての意見を聴取する。 本プログラムのクロージングセレモニーの開催。
1月19日（日）	〔午前〕 大連外国語大学にてキャリア開発セミナー主催	アジア夢カレッジ生及び中国人ルームメイトとの第3回キャリア開発合同研修の実施。
1月20日（月）	大連発→成田着（九門・西川） 〔午前〕 嘉時泰国際物流（大連）有限公司　総経理 米克罗弹簧（大連）有限公司　総経理 〔午後〕 大連吉田拉鏈有限公司　総経理 大連泰和信息技術有限公司　総経理	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、期間中の学生の仕事ぶり、態度等に関して意見聴取し、成績表等を入手する。 来年度の実施に向けた改善点等に関しての意見聴取する。
1月21日（火）	〔午前〕 遼寧傑仕孚（ジャスフ）律師事務所 日本瑞穂実業銀行股份有限公司 大連分行支店長 蜻蜓文具商貿(大連)有限公司　総経理 大連慧搜网技術有限公司　経営管理部科長 〔午後〕 大連中国国際旅行社有限公司　総経理 大連漫歩広告有限公司　総経理・編集長 ホームクリニック大連　日本責任者	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、期間中の学生の仕事ぶり、態度等に関して意見聴取し、成績表等を入手する。 来年度の実施に向けた改善点等に関しての意見聴取する。
1月22日（水）	〔午後〕 大連三島食品有限公司　総経理 大連愛光浸漬成型有限公司　董事 総経理	インターンシップ生受け入れ企業等を訪問し、期間中の学生の仕事ぶり、態度等に関して意見聴取し、成績表等を入手する。 来年度の実施に向けた改善点等に関しての意見聴取する。
1月23日（木）	〔終日〕 大連外国語大学漢学院との打ち合わせ	西澤帰国 今年度のプログラム運営上の改善点等の打ち合わせ

●総 括

インターンシップに関しては、概ね良好であったが、1名の学生の就業態度、及び中国人社員に対する態度が良くなく、企業側からのクレームがあった。今後の事前研修の内容改善等を検討しなければならない。

第3回のキャリア研修に関しては、この5か月間を振り返り、日本人学生は「帰国後の目標設定」、中国人学生に関しては「日本での留学または就職等を見据え」アクションプランを作成させ、それを各自発表させた。

大連外国語大学との打ち合わせでは、新漢学院長の選出時期、新しい寮の完成時期、学生たちの教学面での問題点に関して打ち合わせを行い、今後連絡をさらに密にし、迅速な情報共有体制を確立することが確認された。

AUEP 交換・派遣留学生制度

上　海

●訪問先国……中国（上海）
●出張期間……平成25年12月26日～12月29日
●出 張 者……国際関係学部准教授　三橋秀彦
国際交流課書記　富田祐香
●主な目的……本学の交換・派遣留学生制度（AUEP）の派遣先候補大学を訪問し、授業や生活環境について確認するため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
12月26日（木）	〔午後〕上海市内の生活環境調査	
12月27日（金）	華東師範大学国際交流処を訪問（中山北路キャンパス）交換留学担当者と面会	授業見学、宿舎・校内視察、キャンパス周辺の生活環境調査
12月28日（土）	華東師範大学 関行キャンパス視察（三橋） 帰国（富田）	主に学部の専門授業が行われる関行キャンパスの視察、周辺の生活環境調査

●総 括

＜授業について＞

■中国語学習

対外漢語学院には4つの言語研修生コース（中国語長期・中国語強化・中英バイリンガル・ビジネス中国語）が開設され、交換派遣生の場合、中国語長期コースに所属することになる。同コースには、例年、入門・初級・中級・高級の4つのレベルに分かれた30以上のクラスが開講され、学生は20名程度のクラスで1週間に20コマ（1コマ45分）の授業を受講することになっている。また同学院には語学の他に書道等の各種の中国文化の体験授業も開設されている。ちなみに対外漢語学院における留学生の国籍は、アメリカ、韓国、フランス、日本、ベトナム、イタリアの順となっている。

■専門科目

学生がHSK5級を取得している場合、関行キャンパスの各学部（商学院・人文社会科学学院等）で専門科目を受講することができる。その場合、学生は各学部に所属するため一つの学部の授業のみ履修可能で、複数学部の授業を履修することは出来ない。

■その他

日本の他の交換協定校から派遣された学生の専門科目の履修状況を見ると、派遣が1年間の場合、前期は中心地に立地している中山北路キャンパスの対外漢語学院で中国語を学び、後期から郊外にある関行キャンパスの宿舎に移り、そこで専門科目を学ぶケースが多い。仮に学生が上海でインターンシップを希望する場合、前期に中国語学習（午前）とインターンシップ（午後）をさせ、後期から郊外キャンパスで専門科目に集中させる等の組み合わせも可能である。

＜生活環境について＞

中山北路キャンパスは市の中心から車で20分ほどの距離に位置し、鉄道やバスを利用しての移動が容易である。治安に関して、キャンパス周辺では大きな問題は見受けられない。

宿舎は、中山北路キャンパス内に数か所留学生用の学生寮があり、交換留学生は入学申請時に選択することができる。どの学生寮も、教室がある棟から徒歩5～10分以内の距離に位置し、学生食堂も備わっているため生活には便利である。また、寮の受付にはスタッフが常駐しており、門限（夜11時）を設けるなどセキュリティはしっかりしている。部屋は2人1部屋、学習机、ベッド、エアコン、テレビが備わっており、トイレ、バスルーム、キッチンは共同というタイプが大半である。

学内の図書館、食堂、体育館など施設は、正規の学生と同様に使用することができる。関行キャンパスと中山北路キャンパス間には、無料のシャトルバスが運行しており、関行キャンパスで学部の正規授業を受講する場合は、移動に片道約1時間半を要する。

留学生のサポートは、留学生事務室の担当者が行っており、日本語が話せるスタッフが常駐しているため緊急時の日本語対応も可能である。

＜今後のプログラム展開について＞

学内の会議体で派遣についての審議を行い、会議体で了承され次第、平成26年9月より学生を派遣できるよう覚書の取り交わしや派遣生の選抜等準備を進める。華東師範大学からの交換生受け入れは、平成27年4月を予定している。毎年、1名ずつの学生を安定的に派遣・受け入れられるかが今後の課題である。また、学内では派遣生の選抜を行い、学生が決定次第、入学に向けての手続きやインターンシップ先との調整を行う。

キャリア開発

ボストン

●訪問先国……米国・ボストン
●出張期間……平成25年11月4日～11月11日
●出 張 者……国際関係学部教授　新井敬夫
国際交流課参事補　寺尾浩一
●主な目的……「ボストン・キャリア・フォーラム」へ出席し、出展企業の採用活動及び採用基準等の調査のため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
11月 5日（火）	〔午前〕 主催企業との打ち合わせ 〔午後〕 会場内見学	ボストンキャリアフォーラム前日に、主催者側から、昨年度の様子等に関するブリーフィングを受け、本イベントの概略を把握。
11月 6日（水）	〔終日〕 ボストンキャリアフォーラム見学及び出展企業への意見聴取	本イベントへの出展企業ブースを訪問し、採用目的、採用基準、採用マッチング度合などについて、情報収集すると同時に、意見交換を行った。
11月 7日（木）	同上	同上
11月 8日（金）	〔午前〕 Harvard University見学 M. I. T.見学 〔午後〕 ボストンカレッジでのキャリア開発セミナー出席	〔午前〕 キャンパス見学とともに、学生生活の実態などのブリーフィングを受けた。 〔午後〕 ノースイースタン大学の担当副学長より同学のインターンシップ制度の概要と実施状況についての講義を受け、現状のインターンシップ運営についての質疑応答と意見交換。また、M. I. T.の産学共同プロジェクト運営状況についての講義を受けた。
11月 9日（土）	〔終日〕 ボストンキャリアフォーラムの今後の利用方法と国内におけるキャリア開発セミナーの連動方法についての意見交換	ボストンキャリアフォーラムに的を絞った準備方法、また、その際の大学側の学生サポート方法などに関しての意見交換を行った。

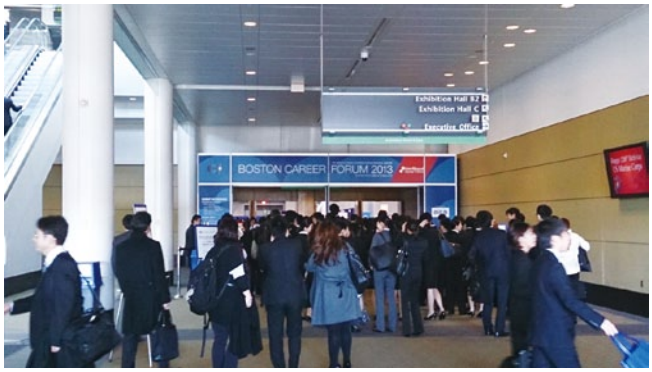
●総 括

今回の出張では、米国留学中の本邦学生を対象としたボストンキャリアフォーラム出展企業から、採用の狙い、採用基準、採用マッチングの度合いなど「グローバル人材リクルート」について情報収集し、それを本学のグローバルな就業支援に活かすことが最大の目的であった。これに関しては一定の知見を得た。これに加え、留学をしていない学生が、日本から渡米し、本イベントにて就職活動を行うという、新たな就職活動のスタイルに関する情報を得たことも、今後、本学学生にグローバル労働市場への参入方法を指導する上で有益であった。

また、North Eastern Universityにおける100年以上前に始まったインターンシップの原型とも言える制度に関する講義は、全学をあげての汎用性のある取り組みという意味で、今後の本学の取り組みに有益であった。さらに、現在のインターンシップ運営上の問題点とその解決策などは、本学が海外でのインターンシップを展開する上でも参考となる情報となった。M.I.T.における産学連携システムは、国際的な取り組みで、規模も大きく、研究開発を含むレベルの高いものであった。

「海外でのインターンシップを終えて、日本に帰国し、さらにその後のキャリア開発目標を設定する」という本学学生に対する指導方針策定にとって、高度な工学系に重点を置きがちなM.I.T.よりも、全学生にインターンシップ機会を提供する、汎用性のあるNorth Eastern Universityの取り組み方法が参考になると思われた。

なお、同大学の副学長は、今後、インターンシップに関する問い合わせに応じるとのことであった。



ボストンキャリアフォーラム

インターンシップ受入協議

韓　国

●訪問先国……韓国・大邱広域市
●出張期間……平成26年3月18日～3月20日
●出 張 者……経営学部教授　　原　仁司
　　経営学部准教授　横山文人
●主な目的……大邱大学校でのグローバル・インターンシップに関する意見交換および実施に向けての協議を行う

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
3月18日（火）	大邱広域市　学部長 他3名	挨拶および作業確認
3月19日（水）	大邱大学校　学部長 他3名	大学施設の視察 グローバル・インターンシップに関するミーティング

●総 括

今回の出張は、本学経営学部のグローバル・インターンシップについて、相手先候補である大邱大学校とその実現可能性を探るため担当学部教員と意見交換および実現に向けた協議を行うことが主目的である。

数時間にわたるミーティングの要点は、以下の通りである。

- 本学部学生を数名程度まで受け入れ、インターンシップを実施できる体制を整えることは可能である。
- 本学部の希望するインターンシップ時間（最低80時間）を双方で確認した。
- インターンシップの内容や実施方法についてさまざまな意見交換がなされた。
- 具体的なインターンシップの内容については、今後も協議を継続して詰めていくこととなった。
- 大邱大学校から同様のインターンシップを本学部でも受け入れてくれないかという要望があり、受け入れられるよう対応していくこととなった。
- インターンシップについての覚書を双方合意の上、取り交わすこととなった。

今後の課題は、以下の通りである。

- インターンシップに関する覚書を亜細亜大学と大邱大学校の間で取り交わすために、内容、組織（大学、学部、または学科）、および方法について迅速に検討する必要がある。
- インターンシップを安全、確実、効果的に実施しなければならないが、そのことを担保するために事前トライアルとしてのパイロット・スタディを行うことを検討する。
- インターンシップを着実に成功させるためには、今後さらに電子メールおよび対面の協議を重ねていく必要がある。

ベトナム（3月）

●訪問先国……ベトナム
●出張期間……平成26年3月2日～3月8日
●出 張 者……経営学部教授　伊藤善夫
　　秘書課長　　三澤　勝
●主な目的……大学、政府機関、商工会等を訪問し、インターンシップの受入可能性について調査するため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
3月　3日（月）	09：30　日本貿易振興機構ホーチミン市事務所 所長	ホーチミン市近辺での経済産業省「国際即戦力育成インターンシップ事業」の実施状況に関する情報の収集。
	14：00　東部国際大学　副学長	インターンシップ実施前の語学・文化教育等、学生受入れ体制の調査。
	15：00　ベカメックス東急株式会社	ビンズン新都市開発現場での日本人学生のインターンシップ受入れ可能性の打診。近隣工業団地日系企業へのインターンシップ学生受入れ紹介についての意見交換。

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
３月　４日（火）	13：00　ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学　学長および国際交流所長	インターンシップ実施前の語学・文化教育等、学生受入れ体制の調査。
３月　５日（水）	09：30　ダナン日本商工会　会長	ダナン商工会加盟企業でのインターンシップ受入れ可能性の打診。
	11：00　ダナン人民委員会事務局　副局長	ダナンでの学生のインターンシップに関する法的な対応の情報収集。
	15：00　ダナン大学　学長および海外留学部長	インターンシップ実施前の語学・文化教育等、学生受入れ体制の調査。
３月　６日（木）	09：00　ハノイ大学　学長および国際交流所長	インターンシップ実施前の語学・文化教育等、学生受入れ体制の調査。
	10：30　外国貿易大学　学長および日本語学部長	インターンシップ実施前の語学・文化教育等、学生受入れ体制の調査。
	15：00　日本貿易振興機構ハノイ事務所　所長・部長	ハノイ市近辺での経済産業省「国際即戦力育成インターンシップ事業」の実施状況に関する情報の収集。
３月　７日（金）	10：30　ベトナム・日本人材協力センターハノイセンター　学長	同センターでのインターンシップ受入れ可能性の打診。

●総 括

本出張は、日本企業の進出件数が著しく伸びているベトナムにおいて、本学学生がインターンシップを行う可能性について、情報収集と実際の受入れ打診を目的として行われた。日本貿易振興機構の二つの事務所責任者からは、経済産業省のインターンシップ事業に関連し、インターンの「駆け込み寺」としての機能の重要性が指摘された。

ダナン市においては、日本商工会会長を訪問し、同市の日系企業での受入れについて、可能性の大きいことを確認したが、同様に、学生のケアをどのように行うかという点ついて、検討が必要であるとの見解が示された。本学がインターンシップを海外で実施する場合に、学生に日々生ずる課題をどのように解決していくのか、今後至急検討する必要があることを認識した。また、インターンシップの期間については、現地への適応、業務の理解、業務への貢献というステップを考えると3カ月から半年は必要であるとの見解が、聞き取りを行った方々の意見として示されたが、学生がインターンシップを行う場合には、就学とどのように両立させるかが課題となる。

なお、ベトナムでのインターンシップには就労許可を人民委員会から得ることが必要であり、ダナン市など、日本との関係強化を指向する地域での実施が必要であることが判明した。

一方、ベトナムでのインターンシップを行う場合、既に述べた就学との両立を考慮し、語学（ベトナム語／英語）およびベトナム文化を中心とした学習活動の可能性を、幾つかの大学において調査した。海外からの留学生に対する語学・文化教育を実施している大学が多いので、学生が一定期間語学・文化学習と能力に応じて英語による授業科目の履修が可能であることを確認したが、宿舎の提供が無い大学が多いため、近隣のホテル等への滞在となる模様である。コスト面や安全面を考慮した場合、ハノイ、ホーチミンの両市よりも、ダナンやビンズン新都市などの新興都市に優位性のあることを確認した。

今後、具体的なインターンシップ実施地域の選定と協力組織（語学・文化教育提供大学を含む）、受入れ企業の特定について精力的に検討していく必要がある。

職員海外研修

サンディエゴ

●訪問先国……米国・サンディエゴ
●出張期間……平成25年8月17日～9月16日
●出 張 者……総務課主事補　金子 泉
●主な目的……職員を海外へ派遣し、研修先で得た経験を今後の業務遂行に活かすため

●行動日程（現地）

日　時	訪問先・対応者等	概　　要
8月18日（日） ～ 8月20日（火）	サンディエゴ州立大学 American Language Institute	オリエンテーション プレイスメントテスト
8月21日（水） ～ 9月13日（金）	サンディエゴ州立大学 American Language Institute	Intensive English Communication Courseを受講

●総 括

(1)サンディエゴ州立大学（SDSU）について

開放感あふれる広大なキャンパスには、白亜の校舎やヤシの木が立ち並び、いかにも南カリフォルニアという雰囲気が味わえる。

キャンパス内にはありとあらゆる施設が揃っている。SDSU Transit Centerには、トロリーの駅やさまざまな路線のバス停留所が集まっており、通学には大変便利である。

ジム「Aztec Recreation Center」には、本格的なトレーニングマシンや団体スポーツの競技スペースもあり、SDSUの学生なら誰でも無料で利用できる。

また、図書館には広い自習専用フロアもあり、宿題等をするのに大いに活用できる。スタジアムやシアターも併設されており、各種イベントが頻繁に行われている。

(2)授業について

レベルは100から107までの8段階で、クラスはOral Communications（スピーキングのクラス＝以下OC）と、General Class（Grammar, Reading, Writing, Listeningの4科目＝以下GC）の2つに大別され、レベルもOCとGCそれぞれで振り分けられる。

クラスの形態は、さまざまな国からの学生と同じクラスで学ぶ、いわゆる国際クラス方式である。参加学生の国籍は、日本人と韓国人が最も多く、他にサウジアラビアなどの中東圏や、ドイツなどのヨーロッパ圏からの学生も在籍していた。

授業は月曜日から金曜日の週5日行われる。どのクラスでも、初回はシラバスが配布され、授業計画、成績評価方法、クラスルールなどの重要な説明があった。また、出席も非常に重視されていた。

【Oral Communications】：主に各国間、特にアメリカ文化との相違点と相似点について、3～4人の小グループに分かれてディスカッションを行った。グループ分けをする際は、同じ国籍の学生ばかりにならないように配慮され、また時間ごとでもメンバーチェンジを行い、できるだけ多くのクラスメイトと意見交換できるように工夫されていた。

【General Class】：各授業ともテキスト・プリントの使用だけではなく、ディスカッションなどOCの要素も取り入れ、社会人学生にも効果的なバランスのよいカリキュラムであった。

【選択科目】：毎週金曜日に、選択科目を任意で最大2科目まで履修することができる。各種テスト対策から、ビジネス英語、映画・テレビ・音楽、数学、スポーツ実技まで、一般科目とは一味違うバラエティに富んだ科目が用意されていた。

その他、放課後に無料で参加できる発音練習クラスもあったので、効果的に活用するとよい。

(3)ホームステイについて

本研修の滞在形態はアメリカの一般家庭でのホームステイで、ホストファミリーの斡旋はAUAPの委託業者であるOvECSに依頼した。

到着後10日ほどすると、OvECSのサンディエゴ地区担当者による全体オリエンテーション（参加必修）が行われた。内容は、パワーポイントによるレクチャー、質疑応答、アンケート記入等である。

本研修を通じ、ホームステイとは、単に寝食の場を提供してもらうだけのものではなく、学校での授業に匹敵する「勉強の場」であるということを強く実感した。

なお、サンディエゴの治安は比較的良いと思われ、滞在中は

特に危険な事態には遭遇しなかったが、夜遅い時間になると、住宅街などは街灯が少ない場所も多いため、一人で出歩くのは避けた方がよい。

(4)総 括

今後、各大学においてさらなる経営努力や新たな取り組みが求められる中、日本の国際力を確固たるものとし世界へアピールするために、優秀なグローバル人材を輩出する使命も重要な一項目である。それは、日々最前線で大学のステークホルダーと接し、業務を遂行している我々事務職員の実行力にかかっている。

第一に、全職員にとって共通かつ重要なミッションとして、グローバル化を全学的に推進していかなくてはならない。そして、日常業務として国際交流に携わっているか否かを問わず、大学運営の根幹を担う事務職員一人ひとりが、そのミッションに対して、己の業務がどのような役割を担っているのかを明確にし、日々の業務で意識することも必要である。

そして、この目標を達成するためには、組織として、本研修のような機会(状況)を積極的かつ継続的に提供すべきである。かかる観点から、グローバル人材育成推進事業はその第一歩となるべきだと考える。

サンディエゴ州立大校舎

亜細亜大学〈行動力あるアジアグローバル人材〉育成事業 ～関連資料～

事業概要リーフレット

平成24年度 事業報告書

TOEIC®目標突破体験記

グローバル人材育成事業シンポジウム（平成25年8月3日開催）

《お問合わせ》
亜細亜大学 国際交流センター 国際交流課
TEL：0422-36-4089　Email：kkcinfo@asia-u.ac.jp
URL：www.asia-u.ac.jp/asiaglobal/